

令和 3 年度
社会福祉法人 永平寺町社会福祉協議会
事業報告書

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日



<総括>

令和3年度は、新型コロナ感染が収束しない中でのスタートであったが、国により示された「新しい生活様式」の実践を意識しながら、法人全体においては第2次地域福祉活動計画および第1期発展強化計画に基づき、当会のスローガンである「ありがとう お互いさまの まちづくり」の実現に向けて取り組んできた。

また、法人全体では法令や諸規定を順守し経営基盤の強化を目指し、特に支出の削減や事業の効率化を目指してきたが、部門別にも重点目標を掲げ取り組んできた。

法人運営部門ではITなどを積極的に活用するなど、「業務全体の効率化」に加え職員の「働きやすい環境づくり」や「部会の開催や事業ごとの会議」などに取り組んだ。

地域福祉推進部門では、アウトリーチを中心に特に「コロナ禍で希薄化した地域のつながりの強化や生活困窮者への支援と見守り活動」、個人・団体および住民主体の「ボランティア活動の充実強化」、民生委員、福祉委員などとの「関係者との連携強化」、「福祉教育や子ども見守り強化事業」、「障がい者への相談や支援」にも重点を置いて取り組んできた。

在宅部門では、コロナ感染のリスクの中でも特に「品質の高いサービスの提供」と「職員の処遇改善」、「利用者への個別援助と日常生活の安定化へ向けての支援」、加えて経営の安定化に向けた「利用者の確保や各加算の活用」など掲げ取り組んできた。

地域包括部門では、地域包括ケアシステムの構築に向け、「総合相談窓口としての機能充実」、認知症やフレイル予防など「地域住民への啓蒙啓発」「介護予防の取り組みの推進と支援活動の強化」加えて、地域福祉推進課と積極的に連携し、「生活支援体制整備事業の取り組みや成年後見」、「困難ケースの相談対応」にも取り組んできた。

各部門が重点目標を掲げ取り組んできた中で地域福祉事業や介護予防事業など大きな成果が出ている一方で、法人全体では収入の予算を大きく下回り前年度と比較した資金収支も大きなマスナスとなってしまったが、介護保険事業所の利用者減による落ち込みが特に大きく影響している。今後は、組織を挙げて介護サービスなどの品質向上と法人全体で収入の確保、支出の抑制と今年度策定する発展強化計画の中でも、スクラップ&ビルドを強く意識し、必要性を的確に見極め、事業の効率化と併せ、財源の確保に向けて費用対効果を勘案しながら取り組んでいかなければならない。

令和4年度は、事務局内での情報共有と課や立場を超えた意見を交わしこれまで以上に職員一人ひとりが社協の役割と使命、地域の福祉ニーズを的確に把握していかなければならない。

また、発展強化計画策定に向けた取り組みや収入と支出それぞれの専門プロジェクト、品質向上委員会、その他のプロジェクトを積極的に実施していく。

さらに大きな決断を迫られることも今後予想されるため、理事会、各部会および評議員も連携し、役員と職員が一体となって法人の事業の継続性と安定性を確保するために、必要な対応を整理した上で、課題解決に向けて取り組んでいきたい。

そして、令和5年度およびその先の将来に向けて法人の事業運営の健全化に向けた財政基盤の強化を図っていかなければならない。

法人運営事業

1. 法人運営事業

1) 評議員会の開催

回	開催日	内容	出席者
1	7月1日	令和2年度事業報告ならびに決算の承認について 理事・監事の選任について	評議員14名中9名、 監事1名、正副会長
2	7月7日	第1次補正予算について【書面決議】	評議員14名全員の同意
3	11月25日	第2次補正予算について	評議員14名中8名、 正副会長
4	R4 3月28日	第3次補正予算について 令和4年度事業計画ならびに資金収支当初予算について	評議員14名中11名、 正副会長

2) 理事会の開催

回	開催日	内容	出席者
1	6月17日	令和2年度事業報告ならびに決算の承認について 評議員選任・解任委員会の開催について 定時評議員会の開催について 評議員選任・解任委員会委員の選任について デイサービスセンター運営規程の一部改正について	理事13名中12名、 監事2名
2	7月2日	会長、副会長および常務理事の選任について 第1次補正予算について 第2回評議員会の開催について（書面決議に変更）	理事13名中11名、 監事2名
3	11月19日	第2次補正予算について 第2回評議員会の開催について	理事13名中8名、 監事2名
4	R4 3月18日	第3次補正予算について 令和4年度事業計画ならびに資金収支当初予算について 経理規程の一部改正について 福祉委員規程の一部改正について 障害者相談支援事業所運営規程の一部改正について えいへいじ訪問介護ステーション運営規程の一部改正について 第三者委員の選任について 役員等賠償責任保険契約の承認について 第3回評議員会の開催について	理事13名中12名、 監事2名

新任期スタート：令和3年度定時評議員会終結の時から令和5年度定時評議員会終結の時まで

3) 評議員選任・解任委員会の開催

回	開催日	出席者
1	6月17日	評議員選任・解任委員会委員3名

4) 理事・監事候補者選考委員会

回	開催日	出席者
1	6月15日	理事・監事候補者選考委員会委員4名

5) 部会の開催

回	開催日	部会名	内容	出席者
1	9月3日	法人運営部会	福祉まつりについて 定年制検討委員会について	部会委員4名
1	8月26日	地域福祉部会	地域福祉推進課および地域包括支援センター所管事業について 今後の事業推進について 福祉まつりについて	部会委員5名
1	9月3日	在宅福祉部会	在宅福祉サービス課所管事業の事業概況について 今後の事業推進について	部会委員4名
2	R4 3月10日	法人運営部会	令和4年度事業計画ならびに資金収支当初予算について	部会委員5名

6) 監査の実施

【令和2年度決算監査】

回	開催日	出席者
1	6月3日	監事2名、正副会長、常務理事、税理士法人MMC1名

【県指導監査】

回	開催日	出席者
1	11月2日	県指導員2名、税理士法人MMC1名、会計職員3名

【令和3年度中間監査】

回	開催日	出席者
1	11月5日	監事2名、正副会長、常務理事、税理士法人MMC1名

【内部会計監査】

・税理士による定期的な会計指導・内部監査の実施継続。

回	開催日	出席者
14	4/26、5/14、5/18、5/26、6/29、7/26、8/26、9/27、10/27、11/25、12/23、1/25、2/24、3/24	税理士法人MMC2名、会計職員2名

7) 経営基盤の強化

①新採用職員の新人研修の実施

社会人としての心構えやビジネスマナー等、社協職員としての資質向上を目指した。

回	開催日	研修名	講師	参加者	内容
1	4月6日	新採用職員フレック ーズセミナー (オンライン研修)	(株)福井キャピタル& コンサルティング 西村喜美氏	新採用職員 6名	挨拶の基本から笑顔の作り 方、言葉遣いなど社会人と しての基礎的マナーを身に 着ける。
2	4月6日	新採用職員 接遇研修	令和2年度 採用職員	新採用職員 6名	先輩職員が作成した当会独 自の接遇マニュアルに沿っ て、福祉職員としての接遇 を身に着ける。
3	8月12日	社会福祉法人会計 「入門講座」 (オンライン研修)	三宅税理士事務所 三宅由佳氏	法人職員 1名	社会福祉法人会計の基礎的 な考え方を身に着ける。貸 借対照表・事業活動計算 書・資金収支計算書、減価 償却の考え方等。

②職員相互による内部研修の実施

回	開催日	研修名	講師	参加者	内容
1	4月28日	ボランティア保険 の理解	ボランティア センター次長	3名	ボランティア保険の概要や種 類、手続きの方法
2	9月14日	労務管理研修	法人職員	3名	社会保険制度の概要や手続き。

③その他の研修や勉強会

法人運営課職員としての専門知識の習得のため研修会に参加。

回	開催日	研修名	講師(主催)	参加者	内容
1	7月6日	労務管理研修	日本経営株式会社 社会保険労務士 田邊光恵氏	2名	介護現場のための労務管 理。労務トラブルを防ぐ 職場づくり等。
3	10月20日	社協ワーカー養成研 修	福井県 社会福祉協議会	1名	社協ワーカー基礎研修・ 演習等
4	11月16日	東海北陸ブロック市 区町村社協職員研修 集会	富山県 社会福祉協議会	2名	シンポジウム 分科会

④定年制検討委員会の実施

高齢者雇用安定法により、65歳までの雇用の機会の確保が求められるなか、当会においても継続雇用制度は導入済みである。今後さらに職員一人ひとりのモチベーションの向上を図り、これまで培ってきたキャリアや専門性を最大限に活かせる環境づくりを行うため、定

年制度の見直しを検討する。検討委員会では幅広い年代の職員と意見交換を行い現行制度の利点や問題点、今後の働き方について討議を行った。

回	開催日	出席者
1	6月14日	検討委員9名、会長
2	8月3日	検討委員10名

⑤職員確保に向けた取り組み

- ・医療福祉専門学校、県立大学、仁愛大学等に永平寺町社協のPR活動を行った。またホームページ、FaceBook、Twitter等の活用により周知を行う。
- ・令和4年度職員採用試験の実施
 - 第1次募集 8月19日 内定者2名
 - 第2次募集 12月27日 内定者4名
- ・内定者オリエンテーション
 - 令和4年度から入局する内定者を対象に、当会の事業内容の説明や職員紹介等を行った。(オンライン開催)

⑥その他

- ・社協内ネットワーク通信を有効活用し、各種研修案内や情報共有などの周知徹底に努めた。

8)メンタルヘルス対策事業

- ・労働安全衛生法に則り常時50名を超える事業所である永平寺事務所においては産業医との契約、衛生委員会の設置を行っている。
- また、任意設置となる事務所(上志比事務所、松岡事務所)においても衛生推進会議を設置し、労働衛生に関する事項について協議検討を行った。

【衛生推進会議】※上志比地区、松岡地区(ほっこり含む)

回	開催日	内容	出席者
1	6月30日	衛生推進者の職務について ストレスチェックの実施について	事務局職員5名

【衛生委員会】毎月第2火曜日 14:00~15:00の1時間(永平寺事務所)

回	開催日	内容	出席者
1	4月13日	今期衛生管理計画 労災事案について	産業医、 事務局職員5名
2	6月8日	新型コロナワクチン接種 ストレスチェック	産業医、 事務局職員6名
3	7月9日	ノー残業デー取組み結果 健康診断事後措置について	産業医、 事務局職員6名

4	8月10日	個人面談	産業医
5	9月14日	ストレスチェック結果報告 洪水を想定した避難訓練結果報告	産業医、 事務局職員6名
6	10月12日	インフルエンザ予防接種について 適切な働きかたについて	産業医、 事務局職員5名
7	11月9日	負傷・損傷からの復帰プロセスについて	産業医、 事務局職員3名
8	12月14日	労災事案結果報告について	産業医、 事務局職員6名
9	R4年 1月11日	新型コロナワクチン接種 アルコールチェックについて	産業医、 事務局職員5名
10	2月8日	事務所・事業所の分散業務 自主検査キットの取扱について	産業医、 事務局職員6名
11	3月8日	コロナ対応フローチャート 今期衛生管理計画の振り返り	産業医、 事務局職員6名

※新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み5月定例開催は見送り

- ・心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）の実施。

ストレスチェック検査 期間 令和3年7月13日～15日

永平寺事務所 ……対象58名中58名受検

上志比、松岡事務所 ……対象87名中80名受検

9)社協会費及び賛助会費の加入促進

多様化する福祉ニーズに迅速に対応していくためには、自主財源の確保は重要である。貴重な自主財源である会費納入依頼や会費使途について、区長会、広報誌等を通し説明を行った。また昨年同様、賛助会費については募集を行っていない。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
普通会費	2,548,000円	2,398,500円	2,501,760円
特別会費	75,000円	45,000円	10,000円
賛助会費	520,000円	0円	0円

10)社会福祉大会の開催

令和3年11月28日（日） 13時30分～15時30分 上志比文化会館サンサンホール

・永平寺町社会福祉協議会長表彰 35名

・永平寺町社会福祉協議会感謝状授与 10名

今年度は、功労者表彰・感謝状贈呈に加え、子ども福祉委員として活躍した御陵きらきら探検隊OBOGによる活動の成果発表や、活動中の諏訪間さわやかサロンと春日3ハ

ッピーサロンの2会場とをオンライン中継でつなぎ、サロンの魅力を町民の皆様へお届けすることができた。当日の様子はケーブルテレビの生中継として町内に放送された。



【表彰選考委員会】

回	開催日	出席者
1	11月19日	表彰選考委員4名、事務局職員3名

1 1)障がい者の雇用促進

- ・「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき2名を継続雇用中
- ・今年度よりあん摩マッサージ指圧師1名を雇用
老人福祉センターで例年実施している盲学校実習がきっかけとなり視覚障害者の採用に至る。就業環境の整備を行うための助成金や業務内容の取り決めなどを盲学校と連携しながら雇用促進につなげた。

1 2)仕事と生活の調和

- ・職員の家庭生活状況にマッチした多様な制度利用を周知・勧奨しワークライフバランスの調和を図った。
- ・有給休暇取得率 45% (一人あたりの取得日数約9日) 昨年比-8.4%減
- ・介護休暇取得 1名 (女性1名)
- ・子の看護休暇取得 8名 (男性4名・女性4名)
- ・新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応特別有給休暇(男性5名・女性12名)

1 3) 災害時における各種関係機関との協力体制の確立

【新型コロナウイルス感染症対策会議】

開催回数	会場等	出席者	内容
31回	役場本庁	事務局長	新型コロナウイルス対策による招集

【町災害対策室会議】

回	開催日	会場等	出席者	内容
1	7月29日	役場本庁	事務局長	豪雨災害対策に関すること
2	8月13日	〃	〃	〃

2. 永平寺事務所運営事業

永平寺地区の総合相談窓口として、業務及び調整にあたってきた。

3. 企画調整事業

1) 苦情解決体制の整備

【苦情受付解決状況】（苦情受付件数 2 件；前年度比 +1 件）

No.	苦情の種類・内容	発生日	解決状況
1	職員の接遇に関する事(通所介護事業所) 【内容】利用者に対し、不適切な対応があった。	4月13日	解決済み
2	貸出車両の運転に関する事(物品貸出) 【内容】貸出中の車両に危険運転をされた。	7月31日	解決済み

【苦情解決に関する研修】

回	開催日	研修名	講師	会場等	出席者
1	11月19日	福祉サービス苦情解決機能強化セミナー	福井県運営適正化委員会	Zoom オンラインセミナー	第三者委員 3名 事務局 6名

【第三者委員会】

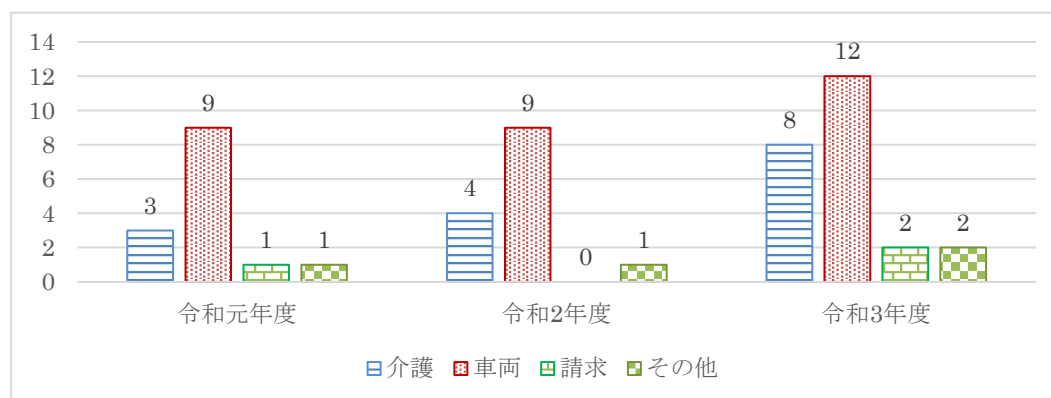
回	開催日	内容	出席者
1	11月19日	苦情受付及び解決結果について	第三者委員 3名、事務局 6名

2) リスクマネジメント体制の整備

①事故件数 24 件（前年度比；+10 件）

内 容	件 数
車両事故（前進時 6、後退時 1、停車時 1）	8 件(前年度 4 件)
介護事故（送迎時 3、施設内 7、誤薬 1、過剰服薬 1）	12 件(前年度 9 件)
過誤請求等	2 件(前年度 0 件)
その他	2 件(前年度 1 件)
合 計	24 件(前年度 14 件)

②事故発生年度別推移



3) コンピュータネットワークの運用

- ・勤怠システムの導入（正職員、嘱託職員）
タイムカードを廃止し、勤務時間や休暇取得の管理をデータ化することで、給与事務の効率化を図り、法に基づいた適正な勤怠管理に努めた。
- ・ひかりインターネット回線運用。
- ・デスクネット活用によりペーパーレスを図り、稟議の迅速化と費用節減。
- ・タブレットシステムの活用（通所介護）



4. 企画広報事業

1) 広報紙の発行（「ほほえみ」隔月発行；全戸配布）

福祉情報、社協事業情報をわかりやすく、かつタイムリーにお届けするため、他部門の職員と連携し、幅広い情報の提供に努めた。

2) フェイスブック・ツイッター（SNS）での情報発信

フェイスブックを活用し、さまざまな年齢層を対象に福祉情報、社協事業情報を発信した（更新頻度…月1回程度）



3) ホームページ運用

【アクセス解析】令和3年4月～令和4年3月

	ページ名	掲載内容	アクセス数
1	永平寺町社協とは	組織体制、事業概要、採用情報	2,023
2	高齢者のこと	各介護保険事業所の概要・案内	1,626
3	広報誌	広報誌「ほほえみ」バックナンバー	1,478

特に採用情報、介護保険事業、広報誌のページに集中している。今後さらにわかりやすく有意義な情報提供をできるように改善を行っていく。

4) 広報部会の開催

回	開催日	内容	参加者
1	4月16日	広報誌5月号の記事について	広報部員6名
2	6月18日	広報誌7月号の記事について Facebook、Twitterの内容 及びルール決めについて	広報部員5名

3	7月8日	Facebook、Twitterの具体的な掲載内容の検討	広報部員3名
4	8月20日	広報誌9月号の記事について	広報部員3名
5	10月15日	広報誌11月号の記事について	広報部員5名
6	10月19日	広報誌掲載の方法について	広報部員5名
7	12月17日	広報誌1月号記事について	広報部員5名
8	R4. 1月24日	広報誌掲載の方法について	広報部員5名
9	2月10日	広報誌3月号の記事について 広報誌掲載についての内部研修	広報部員5名

5. 研修事業

1) 社会福祉援助技術実習生等の受け入れ

① 金城大学3回生 1名

回	開催日	内容等
1	8月11日～17日 5日間	ソーシャルワーク実習

② 福井県立大学2回生 8名

回	開催日	内容等
1	9月17日 1日間	各事業所見学実習

③ 福井県立大学3回生 2名

回	開催日	内容等
1	9月27日～10月29日 23日間	ソーシャルワーク実習

④ 金城大学3回生 1名

回	開催日	内容等
1	2月15日～3月11日 18日間	ソーシャルワーク実習

6. 福祉まつり事業

令和3年度も福祉まつりを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大により福祉まつりを中止とし、社会福祉大会のみの開催となった。

7. やすらぎの郷管理運営事業

自己財産として維持管理を行う。今後広く活用される役割を検討模索していく。

地域福祉活動事業

研修受講

日時	内容	参加者
5月10日～ 9月14日	福井県介護支援専門員専門研修課程Ⅰ・更新研修（経験者）課程Ⅰ・Ⅱ	1名
7月7日・8月23日 8月24日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース	1名
7月13日	福祉職員専門課題別研修 タイムマネジメント研修	1名
9月1日・9月27日	専門員実践力強化研修会Ⅰ	4名
9月8日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	2名
10月13日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	2名
11月19日	福井県内社協職員協議会 第1回「職員研修会」	3名
R4. 2月10日	ファンドレイジングセミナー	3名

1. 地域福祉事業

1) 地域福祉活動計画の目標達成に向けた取り組み

本計画をもとに住民同士が支え合えるまちの実現を目指し、住民への普及啓発を継続していく。（計画期間：令和2年度から7年度の6年間）

【R3年度 冊子配布先（約200冊）】

- ・ R4.2.1～を任期とする新福祉委員
- ・ R3年度小地域福祉委員会実施区
- ・ R3年度地域ふれあいサロン実施区

＜地域福祉活動計画 基本理念＞
「みんなと笑顔でたのしく生きるまち」



2) 福祉委員会の運営

社協と地域のパイプ役である福祉委員の地域における活動（見し、民生委員児童委員や自治会役員等との合同意見交換会等）を行う。また、福祉委員の役割について活動や意見を通じて明確にし、地域内の（支え合い・助け合い）キーパーソンになるよう育成と支援を図っていく。



← 新体制に伴い、まずは担当の顔と名前を覚えてもらえるよう手作りのチラシを作成する

コロナ禍で対面でのコミュニケーションが難しい中、タイムリーな内容を記載したおたよりを作成配布して活動意欲の維持向上を図る →



①福祉委員活動報告書の活用

活動報告書提出状況

松岡地区	132 件	前年度比	-42 件
永平寺地区	29 件	前年度比	-69 件
上志比地区	87 件	前年度比	+1 件
計	248 件	前年度比	-110 件



<https://forms.gle/tEo77vxZiVpB8vY58>

地域における心配な人についての報告など、気になる情報があれば即時地区担当コーディネーターより当該福祉委員へ連絡を入れる。実際、福祉委員の活動報告から介護保険の申請につながったケース等があり、活動報告書を通し、双方向のコミュニケーションから、課題解決へアプローチする。

②民生委員児童委員と福祉委員の連携支援

「ひとり暮らし高齢者見守り訪問事業」を通じた連携支援を実施。福祉委員に当該事業への参加を呼びかけ、計 29 名の福祉委員が参加。自身が暮らす地域に住むひとり暮らし高齢者宅を民生委員児童委員と共に訪問して実態を確認、共有することで、今後連携した見守り支援体制づくりにつなげる。

③福祉委員委嘱式・研修会の開催

R4.2.1～を任期とする新福祉委員の委嘱式&研修会を 2 月 6 日（日）に予定、開催に向け準備したが、県が発令した「福井県新型コロナウイルス感染拡大警報」を鑑み急遽中止とした。委嘱状をはじめ、活動に必要なてびきや活動報告書等を個別に送付し、書面にて新福祉委員 131 名を委嘱する。

④子ども福祉委員会活動

昨年度に引き続き、御陵小学校の 4 年生が自分たちの住み慣れた地域をフィールドにして、世代を超えた様々な福祉に関する活動に参加し、自分たちが住む地域の未来でできることについて考える機会を促す。

活動日	活動タイトル
5 月 28 日	「御陵きらきら探検隊」事前活動推進委員会〔第 1 回〕
6 月 04 日	「御陵きらきら探検隊」事前活動推進委員会〔第 2 回〕
6 月 15 日	「御陵きらきら探検隊」活動推進委員会〔第 1 回〕
9 月 24 日	「御陵きらきら探検隊」任命式&作戦会議！
10 月 08 日	「御陵きらきら探検隊」活動推進委員会〔第 2 回〕
11 月 02 日	「御陵きらきら探検隊」活動推進委員会〔第 3 回〕
11 月 09 日	ミッション発表

11月12日	「御陵きらきら探検隊」ミッション1 「末政区のきらきらを追い」
11月12日	「御陵きらきら探検隊」活動推進委員会〔第4回〕
11月16日	「御陵きらきら探検隊」ミッション2 「はっぱずしのきらきら大調査」
11月24日	「御陵きらきら探検隊」活動推進委員会〔第5回〕
12月03日	「御陵きらきら探検隊」活動推進委員会〔第6回〕
12月10日	「御陵きらきら探検隊」ミッション3 「御陵の神社に秘められた謎をさぐれ」
R4 2月18日	「御陵きらきら探検隊」報告発表会
2月18日	今年度の振り返り

福祉委員、民生委員児童委員、学校関係者、ボランティア関係者など計7名が主体的に活動推進委員として活動、実施できるよう、活動推進委員会を設置。また、活動推進委員会の前段階の位置づけとして意見交換の機会を設けるため、地域の活動推進委員（学校関係者以外）と事前活動推進委員会を実施。

コロナウイルス感染拡大の影響で延期となり、9月に御陵小学校4年生15名を『御陵きらきら探検隊』として任命。オリジナルの任命状&ビブスを子どもたち一人ひとりに交付し任命する。11月～12月にミッション1、2、3を実施し、福祉に関する様々な活動への参加を重ね、地域への貢献と愛着の形成を図る。2月の報告発表会では、協力いただいたボランティアを招待し、『御陵きらきら探検隊』メンバーより発表を行う。今年度の集大成として、『御陵きらきら探検隊』の冊子を作成し、関係者に配布する。

<広報>

地元CATV（えい坊チャンネル）にて、全活動の編集動画を3月に放映。

当会広報誌（ほほえみ）11月号、1月号、3月号にて特集記事を掲載。



活動推進委員会



報告発表会



『御陵きらきら探検隊』冊子

⑤福祉委員功労表彰（福井県社協 会長表彰）

北野麗子氏（葵地区）、市川一夫氏（轟地区）、斎藤真理子氏（轟地区）

3) 小地域助け合い・支え合い活動の推進

自治会(集落)単位で、住民自らが地域内の福祉(生活)課題を発見し、課題解決に向けた取り組みができるよう、活動の場への支援とリーダー育成につながる取り組みを積極的に行う。また、地域包括支援センターとの連携を強化し、地域包括ケアシステムの整備に向け、住民同士の助け合い・支え合い(互助)の推進に取り組んでいく。

①小地域福祉活動の推進

福祉ニーズの発見や解決、見守り活動、高齢者の居場所づくり、緊急時・災害時(除雪等)の対応など、住民が主体となった支え合い活動を推進・支援する。

今年度は光明寺区を、小地域福祉委員会活動を行うモデル地区とし、各地区の代表者を一堂に会した発表会を予定していたが、コロナの影響で中止。書面開催においては、光明寺福祉委員会の活動内容を取材した「ちかっぺだより」を発行し、各地区代表者と未設置区の区長へ送付した。

小地域福祉委員会活動助成事業(交付額 375,000 円 前年度比+22,500 円)

松岡地区	10 件	前年度比	-1
永平寺地区	12 件	前年度比	±0
上志比地区	8 件	前年度比	-1
計	30 件	前年度比	-2

小地域福祉委員会を拠点とした日常的な住民同士の見守り関係が構築されている。また、委員会での情報共有から生活保護の申請につながったケースがあり、住民と専門職との連携を図り課題解決へアプローチする。

その一方、委員会設置区において活動内容等を迷っているという声も上がっている。各地区コーディネーターによる委員会への訪問や代表者のヒアリングを通して、活動上の悩みに向き合い、社協としてきめ細やかなサポートの提供を図る。

②生活支援体制整備事業(地域包括支援センター所管)との連携した取り組み

生活支援コーディネーター(地域包括支援センター職員)と連携・協力し、中学校区単位・自治会単位における地域の実情調査や座談会を開催することにより、フォーマル・インフォーマルな社会資源の発掘や、住民同士の支え合い活動の広がりを推進する。

【松岡地区】

生活支援コーディネーターと連携し、対象地区を吉野地区に設定して、地域ふれあいサロンや100歳体操、お講様にて参加者から生活状況の聞き取りを行う。



訪問日	聞き取り対象
5月26日	吉野塚区 平山氏
6月03日	西野中ふれあいサロン 参加者
6月09日	湯谷区 嶋田氏
6月17日	吉野区 100歳体操 参加者
6月24日	湯谷ゆめサロン 参加者
7月09日	吉野公民館館長 山崎氏
7月21日	上吉野蔵王サロン 参加者
9月02日	小畑区お講様 参加者

役場 総合政策課と一緒にサロンを訪問し、近助タクシーの説明会を行う。

訪問日	説明会対象
10月20日	上吉野蔵王サロン
10月28日	吉野ふれあいサロン
11月01日	吉野塚和美会
11月04日	西野中ふれあいサロン
11月10日	湯谷ゆめサロン

【永平寺地区】

生活支援コーディネーターと連携し、コアメンバー4名宅への個別訪問や、志比北地区地域支え合い座談会を開催。コアメンバーとの意見交換を重ねた。そこで、若い世代も含めた住民の地域に対する想いを把握するため、7月に志比北地区支え合いアンケート調査を志比北地区全戸の6割の方を対象に実施。各区長の協力もあり、回収率は93%となる。さらに11月に「志比北支え合いアンケート報告会」を志比北小学校にて実施。コアメンバーも含めた参加者13名で、アンケート結果に基づいた意見交換を行う。アンケート結果や報告会の内容を踏まえ、令和4年度は区長に各地区の年間行事の確認を行い、世代間交流の要素を盛り込んだ清掃活動の実施、広報活動等を行う予定。

【上志比地区】

生活支援コーディネーターと連携し、『上志比地区ひまわりサポートの会』の活動支援を継続。買い物サポートや見守り支援などの活動支援、広報啓発支援、自己研鑽（勉強会開催）支援を行う。

③ワンストップサービスの推進強化

各事務所単位でのワンストップサービスを目指しより早い課題解決や福祉に関する相談を身近なところに対応する。

相談・コーディネート受付件数

松岡地区	96 件	前年度比	-97 件
永平寺地区	106 件	前年度比	+84 件
上志比地区	116 件	前年度比	+94 件
計	318 件	前年度比	+81 件

4) その他

- 9月6日・30日 地域福祉コーディネーターリーダー研修会 1名参加
 9月30日 地域福祉コーディネーターリーダー研修会 1名参加
 10月20日 社協ワーカー養成研修 1名参加
 11月6日～7日 社会福祉士実習指導者講習会 3名参加
 R4 2月9日 令和3年度生活支援コーディネーター研究協議会 2名出席

2. ボランティアセンター活動事業

ボランティアセンターではボランティア活動をしてみたい人、ボランティアをしてほしい人からの相談を受け、個人・団体の登録者のコーディネートを行う。コロナウイルスの感染予防を重視し、今にあったボランティア活動を推進する。また、各種講座や研修会も小人数での定員数を設定（会場増）、動画配信等を行い人材育成や福祉に対する理解を深める取り組み強化・地域での活動へとつなげる。ボランティア活動につながるための「きっかけ」にちょボラ活動の啓発を行う。また、障がい児者などの福祉支援を中心とした災害時の支援体制の確立を図る。

1) ボランティアセンター運営委員会の運営

◎運営委員会の開催（2回／年）

・第1回運営委員会

開催日：5月31日（月）

会場：永平寺老人福祉センター

出席数：9名

内容：「ボランティア活動状況に関するアンケート調査」の結果について

令和3年度 事業計画について

令和3年度 登録ボランティア（団体）について

・第2回運営委員会

開催日：3月9日（水）

会場：えい坊館

出席数：12名

内容：令和3年度 事業報告について

令和4年度 事業計画（案）について

2) ボランティア活動に関する相談・登録・コーディネート事業

- ①ボランティア登録を推進し、個人・団体の登録数の増加を図る。
- ②積極的なコーディネートを行い、コーディネート成立件数の増加を図る。
- ③福祉施設やサロン等に訪問し、ボランティアの活動中の様子を見守る。

	令和2年度	令和3年度
登録個人数	18名	28名
登録団体数	38団体(458名)	36団体(577名)
相談件数	59件	154件
コーディネート成立件数	51件	135件

* 主な相談の内容および内訳

【ボランティアしたい】⇒広報誌やFacebookを見てボランティア活動をしてみたいといった相談。(18件)

【ボランティアほしい】⇒サロンや福祉施設での演芸や清掃などのボランティア活動をしてほしいといった相談。(56件)

【ボランティア活動保険関係】⇒ボランティア活動保険の説明(補償内容等)や活動中の事故に対する対応など。(16件)

【福祉教育関係】⇒各小学校からの福祉教育学習の依頼や相談など。(12件)

【その他】⇒広報誌に関するご意見やご質問、コロナ禍でのボランティア活動の在り方についての相談、ボランティアに対する苦情など。(52件)

④ ボランティア、NPO 団体の活動支援。

- ・「NPO 法人 かさじぞう」

『大和証券福祉財団ボランティア活動助成』の申請支援。

- ・「EMC 永平寺ミュージックケア研究会」ZOOM 研修受講支援。
- ・「まつおか手話サークル友情」町文化祭発表撮影支援。



⑤ 夏休み等、長期休暇中におけるボランティア活動を推進し、コーディネートする。

- ・「つながれボランティアの輪」推進運動 ボランティア体験 2021(県ボラセン主催)
町内で勤務されている男性1名の問い合わせに応じ、コーディネートを行う。
コーディネート先:「NPO 法人 心に響く文集・編集局」(東尋坊パトロール)

⑥ ボランティア受け入れ担当者連絡会議を開催し、関係機関との連携力を高める。

会議名: 福祉施設ボランティア受け入れ担当者連絡会議

開催日: 6月7日(月)

会場: 永平寺老人福祉センター

目的: ボランティア受け入れ側の福祉施設との情報共有、センターの説明

参加者数: 7名

内容: 「ボランティア受け入れに関する意向調査」の結果について

令和3年度 永平寺町ボランティアセンター事業計画について

令和3年度 登録ボランティア(団体)について

⑦ボランティア活動者交流会を行う。

交流会名：ボランティア活動者交流会

開催日：11月30日

会場：永平寺開発センター

目的：登録ボランティア相互の交流の場づくり

参加者（団体）数：18名（12団体）

内容：コロナ禍におけるボランティア活動インタビュー

ボランティア団体による活動紹介（自己紹介）

情報交換会（活動の状況や工夫など）



⑧ボランティア優良活動表彰（福井県社協会長表彰）

諏訪間さわやかサロンボランティア（代表 竹沢 佐代子 氏）

社会福祉事業功労表彰（福井県知事表彰）

栃原ふれあいサロンボランティアグループ（代表 島田のり子氏）

3) ボランティア活動に関する啓発・広報、情報提供事業

①永平寺町社協 Facebook を活用し、特に若い層へのボランティアセンターの周知を図る。

・ボランティアセンターHP 更新実績（計 37 回）

②ボランティア活動への理解と登録者の促進を図るため、社協広報誌「ほほえみ」にてボランティアに関する記事を掲載してきた。

永平寺ボランティアセンターって何してるの？

エコキャップ・プラスチック資源（古びん）活動

広報・啓発

ボランティア募集の開催

福祉教育学習の推進

コーディネーター

ボランティア登録・活動保険の更新はお済みですか？

TEL 0776-61-6003 FAX 0776-61-1797

【ボランティアセンター紹介記事】
「ほほえみ」R3年5月号

突撃！地域のボランティア

Be-feel nature

「Be-feel nature」さんは町内のごみ拾い活動を専ら力に培っているボランティア団体さんです！昨年10月に設立したばかりの新しい団体さんですが、とても精神的に活動されています。SNSを使って活動の様子や永平寺町の魅力も発信していますのでインスタグラムで活動の様子を見てみてください！

永平寺町の稲佐地区でのごみ拾いの様子。思ったよりたくさんごみが出ていますねー！

今週はせんりん農産物活動させている「Be-feel nature」さんに、ちよこつとインタビューしてみました！

Q. ボランティア活動を始めるのきっかけは何ですか？

A. SNSでゴミ拾いに誘われて参加したのがきっかけ。お誘いいただいた方から、ゴミ拾いでいい環境が保たれる。アウトドアが好きという共通点もあって、とても楽しく活動しています。ちなみに、地元である永平寺町が大好きなので、いつまでも綺麗で素晴らしい町であってほしいという思いが活動の始まりです。

Q. 活動を始めて変わったことありますか？

A. 活動していることでゴミが落ちていない状態になるようになりました。綺麗になったところを通ると気持ちよく歩けます。

Q. 町民の理解がどのくらいありますか？

A. 一人ひとりが少しずつ関心を持ってくださることで、大好きな町をきれいにしてあげたいという思いが活動のきっかけになってきています。

※お呼びかけは、お誘いいただいた方とせず、一緒に集まる永平寺町周辺の方でも積極的に参加してほしいです！「Be-feel nature」さんと一緒に活動したい方がいたらぜひお問い合わせください。ぜひボランティアセンターまでご連絡ください。

お問い合わせ先 永平寺町社会福祉協議会 永平寺町ボランティアセンター ☎0776-61-6003

【ボランティア団体紹介記事】
「ほほえみ」R3年9月号

*年間を通して、当センターの活動周知や登録されているボランティアを紹介する記事を作成。さまざまなボランティアを広く町民に知っていただくと同時に、「ボランティアのことはボランティアセンターへ」という意識づけを図る。

③社協広報誌「ほほえみ」の点訳版を発行し、視覚障がい者への情報提供を行う。

・点訳サークル「松岡サンライト」へ点訳版作成業務を委託する。

④ホームページやケーブルテレビ等も活用し、研修や講座の案内、ボランティア募集などの情報を発信する。

・シニア向けボランティア講座や各種助成金のお知らせ、活動の写真追加など、ホームページを随時更新。

・ボランティア講座のお知らせなどをケーブルテレビで発信。

⑤各種助成金の案内を行う。

・福井県社会福祉協議会「福井県まごころ基金助成事業」

・大和証券福祉財団「ボランティア活動助成」

・福井県民生協「県民せいきょう市民活動助成金」

⇒「ほほえみグループ」（認知症カフェ運営）が申請、採択に至る

4) ボランティア講座、研修会の開催

①講座名:ボランティアリーダー研修会 ～夏を乗り切る！リフレッシュ体操！～

開催日:7月26日、7月27日、7月30日

会場:永平寺老人福祉センター、やすらぎの郷、グループホームはないろ

講師:NPO 法人生涯体育学習振興機構 健康運動指導士

目的:サロン代表者と簡単にできる体操を一緒に行い、
今後のサロンでも活用していただけるようにする。

参加者数:永平寺 17名、上志比 9名、松岡 24名

内容:サロンですぐに実践できる簡単体操の指導(心身のリフレッシュも兼ねる)



②講座名:支えあい助けあいまちづくり講座

開催日:9月16日

会場:永平寺町四季の森複合施設

協力:地域包括支援センター、町総合政策課

目的:志比北地区近助タクシーのドライバーに支え合い
や助け合いなどについて関心を深めていただける
ようにする。



参加者数:12名

内容:見守り活動について

近隣助け合い体験(ゲーム)

志比北地区地域支え合い座談会について

③講座名:社会人向け福祉教育講座

開催形式:オリジナルDVDを作成して配布

(12月14日の町内小中校教頭会にて説明、配布)



講師:鶴ヶ島市社会福祉協議会 牧野郁子 氏

目的:福祉教育を実施する小学校の教職員に向けて、改めて福祉教育を実施する意義を考えていただけるようにする。

目的:今、求められる福祉教育とは ～サービスラーニングと地域のつながり～
永平寺町ボランティアセンターの紹介

④講座名:はじめての囲碁講座 (シニア向け趣味ボランティア講座)

開催日:12月23日

会場:永平寺開発センター

講師:永平寺町囲碁クラブ 清水源榮 氏

目的:趣味としての囲碁への興味関心を促し、
福祉施設での利用者の相手等、ボランティア活動
のきっかけづくりを図る。

参加者数:6名

内容:ルールに触れて実際に囲碁を打ってみる




5) 福祉教育・学習の推進

①各小学校からの要望を受け、福祉教育学習をコーディネートする。

福祉施設訪問や交流学习の要望を受け、コーディネートする。

月日	実施校	学習内容	講師
4月2日～ 4月27日	各小学校	本年度の福祉教育の案内および 説明	
4月21日	松岡小学校 い組:35名 ろ組:35名	ふくしてなに? (福祉に関する学習)	社協職員
5月14日	松岡小学校 い組:35名 ろ組:35名	高齢者疑似体験 	社協職員
5月20日	志比南小学校 14名	認知症サポーター養成講座	認知症キャラバンメイ ト
6月4日	松岡小学校 い組:35名 ろ組:35名	車いすユーザーからの話 	南部トシエ 氏
6月9日	松岡小学校 い組:35名	視覚障がいの方からの話	盲学校教諭

	ろ組:35名		
6月16日	志比南小学校 14名	車いすユーザーからの話 視覚障がいの方からの話 	平山丈貴氏 盲学校教諭
6月18日	松岡小学校 い組:35名 ろ組:35名	点字体験学習 	点訳サークル 「松岡サンライト」
9月17日	志比南小学校 14名	高齢者疑似体験セットの貸し出し、内容についての説明および資料の配布等	
9月22日	志比小学校 26名	高齢者疑似体験セットの貸し出し、内容についての説明および資料の配布等	
9月30日	志比小学校 28名	認知症サポーター養成講座 (zoomにて対応)	認知症キャラバンメイト
10月1日	松岡小学校 い組:35名 ろ組:35名	手話体験講座	手話サークル 「友情」
10月8日	松岡小学校 い組:35名 ろ組:35名	盲導犬ユーザーの話、ふれあい 	光道園職員 早苗ゆきこ氏
10月21日	志比小学校 28名	手話体験講座 	手話サークル 「友情」

10月27日	志比小学校 28名	アイマスク体験講座 	光道園職員 社協職員
11月4日	志比小学校 28名	点字体験学習	点訳サークル 「松岡サンライト」
11月16日	上志比小学校 26名	アイマスク、点字セット、高齢者 疑似体験セットの貸し出し、 内容についての説明および 資料の配布等	

②研修

2月7日 令和3年度市町社協福祉教育担当者会議 2名出席

6) 災害時における福祉救援体制の整備

◎雪かきボランティア（スノーバスターズ）等、地域や学校を巻き込んだ支援体制づくりを行う。

- ・スノーバスターズ登録者の呼びかけ、雪かきニーズの把握をして、マッチングを図る。

呼びかけ先：各中学校、県立大学生、個人ボランティア 等
登録者数：永平寺中学校 38名
県立大学生 29名
個人ボランティア 4名



マッチング件数：21件

7) 収集ボランティア活動の促進（ちょボラ活動）

◎エコキャップ、プルタブの収集促進を図る（回収場所の増、収集促進PRなど）。

*収集量について

エコキャップ：1,286 kg（前年度比：+21 kg）
→ワクチン 643 人分（前年度比：+11 人分）
プルタブ：156 kg（前年度：+16 kg）
→換金額 7,750 円（前年度比：+3,750 円）



備考：5月より定期的に2名のボランティアが町内の回収BOXからのエコキャップ、プルタブ収集を担う。

*エコキャップ、プルタブ回収BOXの新規設置場所について

- ・上志比デイサービスセンター（エコキャップ）
- ・はあもにい永平寺（エコキャップ）
- ・トヨタモビリティパーツ福井支社（エコキャップ、プルタブ）

8) 災害復興支援プロジェクト

◎プルタブ回収換金額を支援金として被災地へ寄附する。

・換金額 7,750 円を、町共同募金委員会を通して被災地へ寄附。

9) 災害ボランティアセンター連絡会（事務局）

① 連絡会の開催

町内のボランティア団体、行政や関係機関との普段から顔の見える関係づくりを図り、有事の際の連携強化を目的に連絡会を運営する。

7月から8月にかけて、福井県嶺北地域における大雨の影響で、実際に越前町社協にて災害ボランティアセンターが立ち上がった経緯もあり、改めて平時から災害ボランティアセンター設置運営への必要性を認識することとなった。

② 災害ボランティア研修会

永平寺町の地域防災計画策定に尽力されている福井大学酒井教授をお招きし、連絡会メンバーへの研修を行った。

開催日：9月14日

会場：永平寺町役場 3階「大会議室」

参加者：10名

③ 災害ボランティアセンター設置訓練

災害ボランティアセンター設置要綱に基づき、災害ボランティアセンターの設置訓練を実施。様々な団体・個人の方々が参加し、改めて各々の役割や動き方を再認識する良い機会となった。

開催日：10月30日

会場：永平寺町やすらぎの郷

参加者：9団体・55名

④ チャリティ募金等を活用した被災地支援

実績なし

その他

7/31 令和3年度永平寺町避難行動要支援者協議会キックオフ講演会 1名参加

10) ボランティア活動保険の加入窓口

◎ボランティアセンターに登録いただいたボランティア（個人、団体）に対して、ボランティア活動保険加入料（350円/人）の助成を実施。

	令和2年度	令和3年度
登録個人保険加入数	17名	28名
登録団体保険加入数	31団体（441名）	33団体（557名）
保険のみ加入数 【自費加入団体】	26団体（339名）	23団体（367名）

*当センター登録者を対象に、計204,750円の保険料を助成。

3. 緊急連絡情報カード設置普及事業

緊急連絡先、病名などの医療情報等を記入できるカードを配布し、緊急時に発見者や救急・医療関係者が適切な判断や応急の措置をとる等の適切な対応を可能にすることを目的に実施していたが、年間通した更新地区数が4件と利活用度が認められていない。現在の在庫分をもって同事業を廃止予定。

更新地区/実施地区 松岡地区 3/46、永平寺地区 1/26、上志比地区 0/17
 全体 4/89 普及率 4.5%)

4. 地域ふれあいサロン事業

高齢者に対して身近な集落センター等において、ボランティアおよび福祉委員、民生委員児童委員の協力のもと、身近なところでの居場所づくりを目的に、レクリエーションや健康体操などの活動を通じて社会参加と健康維持を図り、閉じこもり、地域内での孤立の防止に向けて支援する。また、職員の派遣や茶話会中心の無理のない活動に転換するため助言や相談支援を行う。コロナウイルスが収束するまでサロンの開催を休止している区へは、参加者相互の見守り活動を取り入れた支え合い活動(サロン継続のため)も推奨する。

1) サロン代表者会議、サロンリーダー研修会の実施(新型コロナウイルス感染対策のため各地区で開催)

No.	開催日時	会場	出席者
1	7月26日 14:00~15:00	永平寺老人福祉センター	18名
2	7月27日 14:00~15:00	やすらぎの郷	9名
3	7月30日 14:00~15:00	グループホームはないろ	28名

【内容】

◎ 各種事務手続き及び助成金に関する説明

「夏を乗り切る！リフレッシュ体操！」※サロンリーダー研修会として実施

2月に開催を予定していたサロン代表者会議は、コロナウイルス感染拡大の影響で中止とする。なお、サロン通信で各サロンの取り組み状況などを紹介し、各地区のコーディネーターが代表者へ個別訪問の形態をとる。

サロン通信 臨時号

令和4年2月

この臨時号には、各地区のサロンが取り組んでいる、地域住民の身近な活動について、写真やイラストを交えて紹介しています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、各地区で実施されている取り組みについても紹介しています。

＜松岡地区サロン代表者会議＞ R3.7.18日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜永平寺地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜上志比地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜松岡地区サロン代表者会議＞ R3.7.18日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜永平寺地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜上志比地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜緊急連絡カード設置普及事業＞ R3.7.25日誌
 緊急連絡カードの配布と回収を行いました。

＜地域ふれあいサロン代表者会議＞ R3.7.18日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜松岡地区サロン代表者会議＞ R3.7.18日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜永平寺地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜上志比地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜松岡地区サロン代表者会議＞ R3.7.18日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

＜永平寺地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

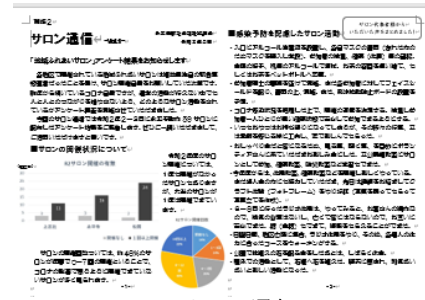
＜上志比地区サロン代表者会議＞ R3.7.25日誌
 代表者会議を開催しました。各地区の状況を報告し、今後の活動について話し合いました。

2) サロン未設地区への支援（他課との連携による居場所づくり）

【設置地区】 59 か所（昨年度比 ±0 か所）



サロンの様子



サロン通信

昨年に引き続き、コロナの影響でサロン自粛を余儀なくされている。サロン助成金を申請していないサロンもあり、長引く長期休止で担い手不足や代表者のモチベーションの低下もみられる。サロンの担い手不足のため、松岡地区のすこやかクラブ（松ヶ原4丁目区）が今年度より活動終了している。

しかし、10月に松岡地区の吉野ふれあいサロン（吉野区）は、名称を変更して5年ぶりに再開、上志比地区のMG上志比サロンでも助成金の申請があったことから、サロン数は増加している。今後もサロン通信の発行や代表者との密なコミュニケーションを図り、サロン存続に関しての支援を継続していきたい。

3) 地域ふれあいサロン活動助成事業（未申請6か所 昨年度比 +1か所）

地区	サロン開催状況 (年度内に1度でも開催)
松岡地区	26か所/26か所中(100.0%)
永平寺地区	15か所/19か所中(78.9%) (昨年度比 ±0か所)
上志比地区	13か所/15か所中(86.7%) (昨年度比 +1か所)



サロン開催判断基準表

※今年度より年間通しての助成金の申請となる

※コロナウイルス感染拡大のため、サロン開催を見合わせる場合は見守り訪問を行い、サロン代表者等がお菓子、飲み物、感染対策グッズを配布し安否確認されている地区もある。

※脳トレ、早口言葉等ケーブルテレビで発信している。

5. 物品貸出事業

在宅での介護を支援するために介護保険制度上、福祉用具貸与を利用できない方に社協保有の介護機器（車いす）を町民に無料で貸出す。また、地域での福祉活動の支援や、福祉の啓蒙啓発の目的で社協保有の一般備品を無料で貸出す。

- 1) 福祉教育・地域での福祉活動を支援するための各物品の無料貸出や物品の購入
- 2) 福祉車両の無料貸出 ※有料道路代、ガソリン代は除く

- 3) 視聴覚機器（プロジェクター、スクリーン、マイクセット、スピーカー等）の無料貸出
- 4) 区内の地域福祉活動として、除雪車の貸出（申請は自治会、ボランティア団体に限る）

物品貸出トータル件数

マイクロバス	0 件	前年度比 -6 件
福祉車両(3 台)	103 件	前年度比 +28 件
物品	121 件	前年度比 +5 件
計	224 件	前年度比 +27 件

物品：視聴覚機器 26 件、レクリエーション 31 件、車いす 60 件、飛沫防止パネル 4 件

コロナウイルス感染拡大下においても、感染対策を徹底し再開するサロンが見られ始めたことから、昨年度より物品の貸出件数は増えた。特に、会話をせずに映像を楽しめる視聴覚機器（プロジェクター、スクリーン、スピーカー）の貸出が多く見られた。福祉車両の無料貸出は新規の利用者もあり、件数増。車いすの貸出の需要も高い。ケーブルテレビを活用して、新しい物品の紹介を情報発信した。

6. 団体事務事業

住民団体の円滑な運営を補佐し、住民活動の促進を図る。

- 1) 永平寺町遺族連合会
- 2) 永平寺町英霊顕彰奉賛会
- 3) 福井県英霊顕彰奉賛会
- 4) 福井県共同募金会永平寺町共同募金委員会

7. 子ども見守り強化事業

国が示した「支援対象児童等見守り強化事業」を踏まえ、地域内で見守りや支援を必要としている要支援児童等に対し、関係機関、民間のボランティア関係団体および地域内の関係者等と連携を図り、状況の把握や食事の提供を行う。

また、行事や学習を活用して子どもの見守りを行う中で、地域で生活する子供たちの思いや課題等くみ取り、今後の地域福祉活動に活かしていくことを目的とする。

①宅食

主に母子父子家庭の対象児童宅を当会職員（有資格者）が月に 1 回、一軒ずつ訪問するスタイルで NPO 団体等とも連携して実施。当会は主に上志比地区と永平寺地区で展開（松岡地区は NPO 団体が展開）。宅食を通して、対象世帯との関係性を深めながら、見守り体制

(対象者が抱える悩み、心配ごとに対する早期発見・予防対応)の構築を図る。また、農林水産省より備蓄米を頂き、千葉県産のふさこがね米を毎月一人当たり200gずつ配布した。

◎毎月1回実施(第4金曜日)

実施回数: 12回 延べ利用者数: 243名 延べ世帯数: 149世帯



お弁当と食育のチラシ

※本事業を通して実際に、『児童クラブにおける虐待が疑われるケースの相談』を受け、終結に至るまでを対応。他に、『女性のみの子世帯であるため災害時等における心配ごと相談』、『学習の遅れ(読み書きが苦手等)についての相談』、『県家庭相談員と連携した見守り支援についての相談』などといった相談を受けており、随時対応している。

① 学習支援

町内7小学校を通じて参加を呼びかけ。長期休暇中(夏休み等)の宿題や苦手科目の克服、学期末の復習をするため、拠点型の学習支援を実施。学習支援を通して、大人と子どもの相互の信頼関係に基づく安心安全な居場所づくりも図る。

・令和3年8月2日~12日(8日間)

会場: 永平寺老人福祉センター

延べ参加者数: 67名

・令和3年12月24日~28日(3日間)

会場: 永平寺開発センター消防ホール

延べ参加者数: 40名

・令和4年3月25日

会場: 永平寺開発センター消防ホール

参加者数: 16名



学習支援の様子

② その他

R4.3月8日 子ども居場所づくり講座研修 3名参加

8. 一般配分金事業・地域福祉事業

①障がい児（者）の社会参加と保護者の親子リフレッシュ事業

令和3年度については、コロナ禍の影響もあり従来型の外出行事を取りやめ、視聴覚機器で旅行先を投影する「疑似旅行型」にて実施。実際のバスガイドによるアナウンスに加え臨場感あふれる映像と音をふんだんに活用し、五感で楽しむことができる内容となった。

開催日：10月9日 AM / PM の2部構成

会場：はあもにい永平寺（AM） / グループホームはないろ（PM）

参加者：20名

②児童遊具の修繕等助成事業

1地区（牧福島区）

③地域でいつまでも生活できることを考える事業

近年、発達障がいへの理解については、当事者やその家族のみならず学校関係者や地域住民の理解といった周辺環境も、住み慣れた町で過ごしていくためには重要な要素となる。今回は町主任児童委員や県及び町家庭相談員など、様々な役割を持ち子どもの支援を行う関係者を対象に、町内外の障がい児福祉サービス事業所の視察見学を実施。幼稚園や学校以外の場所で、各々の特性に応じた療育内容や関わり方について学びを深めた。

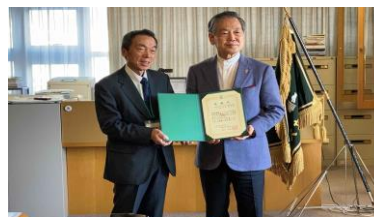
開催日：11月26日

視察先：スマイルメーカー / みどりのくまさん / 平谷こども発達クリニック
ウォレスアカデミー

参加者：11名

④生活困窮者への緊急食糧支援事業

6月にコロナ特例貸付をご利用されている方々を対象(22/62世帯)に、10月(7/14世帯)、R4.3月(9/15世帯)に各世帯の生活状況を確認しながら食糧支援を行った。また、10月28日 福井県立大学生100名に、R4.3月にも100名の学生に対して、食糧支援を実施した。



⑤緊急助成 障がい児者がいる世帯への安心見守り事業

赤い羽根福祉活動応援全国キャンペーンの助成金(30万)を頂き、6月に障がい児者80世帯に食糧支援および生活の困りごとの確認のため見守りを実施した。



食糧支援で訪問

⑥ 緊急助成 ひとり親家庭等の夏休み見守り訪問事業

赤い羽根福祉活動応援全国キャンペーンの助成金(30万)を頂き、8月に町内のひとり親家庭等を対象に永平寺町母子寡婦福祉連合会、主任児童委員の協力のもと、

社協職員と NPO 法人かさじぞうと協働で見守り訪問を実施。ひとり親家庭等 94 世帯にいのちをつなぐ支援を行った。

⑦災害準備 安全安心な地域づくり事業

県共同募金会より、災害等準備金の取崩助成金（48 万）を頂き、除雪機やスコップ等を購入し災害に備える。



⑧ひとり親家庭の食事等の支援事業（春休み）

全国社会福祉協議会が厚生労働省の補助を受け、緊急助成金（30 万）を頂き、3 月下旬に町内のひとり親家庭等を対象に永平寺町更生保護女性会の協力のもと 90 世帯に食糧支援を行った。



9. 歳末配分金事業

①ひとり暮らし高齢者への歳末おせち料理配布事業

80 歳以上のひとり暮らし高齢者世帯の方や、その他民生委員が特に必要と判断した高齢者世帯へ、おせち料理の配布。

配布期間 12 月 28 日、12 月 29 日対象者 198 名（昨年度比 +7 名）

協力：民生委員児童委員

②生活困窮者への支援金配布

生活困窮と思われる、または生活保護に準ずる世帯（生活保護世帯を除く）へ配分金 5,000 円を配布。

12 月配布 対象者 14 名（昨年度比 +1 名） 協力：民生委員児童委員

③母子父子家庭児童への図書券贈呈

ひとり親家庭の小中学生に対し、図書カード 3,000 円分を配布。

12 月配布 対象者 81 名（昨年度比 +8 名） 協力：民生委員児童委員

④障害児者福祉施設への激励訪問事業

当会出身者が入所している障がい児者福祉施設を訪問。

実施期間：11 月 計 13 事業所 対象者 31 名（昨年度比 -1 名）

※昨年度に続き、コロナ感染予防のため社協職員のみで実施。

⑤ひとり暮らし高齢者見守り訪問事業

コロナ禍での不安、コロナ詐欺、熱中症や脱水症、孤独死の予防のために見守り訪問を実施した。今年度は、民生委員児童委員の他に、福祉委員にも声かけをして、協働での見守り訪問を行った。福井警察署より特殊詐欺防止啓発グッズ(ポーチ)を贈呈していただく。

実施期間：8 月～10 月

対象人数：416 名



ポーチの贈呈式

⑥家屋漏電点検事業

ひとり暮らし高齢者宅等を対象に、漏電やコンセント、プラグなどが原因で発生する火災や事故などの未然防止を図り、安心した暮らしを確保することを目的とする。広報誌の掲載、居宅介護支援事業所等を通じてのチラシの配布で参加者を募る。

実施期間：11月～12月

対象人数：25名

業者：(有)山王電機センター

福祉サービス利用支援事業

1. 福祉総合相談事業

1) 弁護士による無料法律相談所開設

- ・各地区持ち回りで毎月開催する。
- ・コロナウイルスの状況や日中働いていることにより、会場に足を運べない方へのアプローチとして、本所、永平寺事務所で開催される月は電話相談も実施。

開催回数	12回
相談者	37名（うち電話相談3件）

（昨年度6月から5回開催、相談者 計22名）

当会広報誌のみならず永平寺町役場の広報誌への掲載、ケーブルテレビやSNSでの情報発信、ポスターの作成など、広報活動に力を入れた。

- ・また、コロナウイルスの影響で、緊急小口資金、総合支援資金等の貸付相談は昨年から引き続き多く、福祉委員活動報告書、ひとり暮らし高齢者見守り訪問での聞き取りからサービスに繋がったケースもあった。サロンの開催についての相談も一定数あり。



2) 講座（セミナー）の開催

- ・コロナウイルス対策のため集合型でなくケーブルテレビでの配信型をとり、12月1日より1ヶ月間放映。

テーマ：「ひきこもり者への支援と地域の関わりは」

講師：えちぜん青少年自立支援センター

題佛 臣一 氏/西出 厚子 氏

視聴後のアンケートを実施したが回答が得られなかったため、観た方から感想を募ることはできなかった。その一方で、Facebookの投稿を見た大阪在住（実家が永平寺町）の方から「DVDをもらえないか」という問い合わせや、町議会で話題に上るなど、想定外の反響があり、「引きこもり」というテーマへの関心の高さを感じた。

3) その他

R3.11/10 ゲートキーパー研修会 1名参加

2. 日常生活自立支援事業

永平寺町民の方を対象に、判断能力等に不安がある高齢者や障がいのある方が自立した日常生活を送れるよう、福祉サービス利用援助、日常的金銭管理、書類等預かりなどを中心とした生活支援を行う。

新規の利用者数は増加傾向にあり、福井県下においても同傾向が見られている。コロナ禍との因果関係までは検証しきれていないが、生活状況が複雑化する中において、今後も需要は大きい事業と捉えている。また、今年度については小地域福祉委員会での話し合いから本事業の利用に至ったケースもあり、改めて地域内での助けあいの重要性を再認識することができた。

- ・利用者数：12人（認知症高齢者8人、精神障がい者3人、知的障がい者1人）

※【令和2年度実績】利用者 … 11人

- ・生活支援員：5人（昨年度比 -2人）
- ・新規契約締結件数：3件
- ・契約終了件数：2件（契約者の死亡）
- ・相談援助件数（下記、表に記載）

相談援助件数

認知症高齢者等	270件	前年度比 -8
知的障害者等	28件	前年度比 -10
精神障がい者等	61件	前年度比 -27
計	359件	前年度比 -29

- ・生活支援員研修会

R3.9月29日 日常生活自立支援事業専門員連絡会 2名出席

R4.2月4日 権利擁護関係職員研修会 3名参加

3月22日 生活支援員研修会 支援員3名参加

- ・福祉サービス利用援助事業にかかる現地調査

R4年2月28日 松岡福祉総合センター

- ・広報・啓発事業の実施

R3年11月、R4年3月 広報誌にて事業紹介

3. 小口資金貸付事業

1) 緊急小口福祉資金貸付事業（社協事業）

①一時的な生活困窮に陥った人を対象とし緊急に資金を貸し付け世帯の自立更正を図る。

貸付件数 / 残高 3件 金額 0円

②フードバンク食品配布

新型コロナウイルスの影響に伴い、県民生協様をはじめ町民の皆様から多くの食品の提供を受け、町内の障がい児者4施設に配布した。

また10月には、福井県立大学の学生100人に食料品のセットを配布した。(集まった食品数=659点) 食糧配布支援 件数 ≒160人



ありがとうメッセージ

4. 生活福祉資金貸付事業

新型コロナウイルス感染の影響によって収入の減少、休業、失業された方向けに「緊急小口資金」「総合支援資金」の特例貸付が令和2年3月より一斉にスタート。当初は同年7月での受付終了を予定していたが、長引くコロナ禍において生活に悩む方々は後を絶たず、現在では令和4年6月末日まで受付期間が延長されている。

当町においても令和2年度に引き続き、貸付相談・申し込み件数が数多くあり、地域内で経済的不安をお抱えの方々は少なくはない状況である。

令和4年度についてはそれぞれの貸付種類に応じて順次償還も始まる為、償還に要する支援も実施する必要がある。

特例貸付申請状況

貸付資金種類	申請決定	決定金額	前年度比
緊急小口資金	25件(-22件)	4,650,000円	-4,200,000円
総合支援資金(初回)	25件(+1件)	13,210,000円	+1,230,000円
総合支援資金(延長貸付)	5件(-1件)	3,000,000円	+210,000円
総合支援資金(再貸付)	14件(+13件)	8,100,000円	+7,500,000円
計	69件(-9件)	28,960,000円	+4,740,000円

貸付（本則）申請状況

福祉費 2件 決定金額 350,000円

① 生活福祉資金調査委員会・福祉サービス利用料負担軽減審査委員会

- 第1回 開催日：9月21日 書面議決にて開催 8名/8名中
- 第2回 開催日：11月30日 えい坊館にて開催 8名/8名中
- 第3回 開催日：3月15日 書面議決にて開催 8名/8名中

② 生活福祉資金の広報活動 当会HP、広報誌にて受付期間延長について広報

5. 福祉サービス利用料負担金軽減実施事業

低所得者を対象に利用負担金の補助を行う（1 か月限度額 10,000 円）。

利用者：4 名（前年度比+2 名）

6. 成年後見サポート事業

局内において、同センターの在り方について検討中

在宅福祉サービス事業

1. 在宅福祉サービス事業

【大 目 標】： 住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、町民のニーズに即したサービス提供を目指し、職員一人ひとりが専門職として、互いに成長できる職場環境を目指していく。

【結 果】： 町内の中でも介護保険事業所が多くある中、各事業所が町民の方に選んでいただけている事業所であるかどうか早急に分析する必要がある。

【詳 細】

訪 問 介 護：新型コロナウイルス感染症対策を強化したため、サービス提供を控えさせていただき時期もあり、結果的には訪問件数は約 500 件減少した。

訪 問 入 浴：慢性的人員不足による事業運営体制そのものの、見直しが必要。

通 所 介 護：3ヶ所のデイサービス全てにおいて利用者が減少した。稼働率が平均 59.7%となり 69.7%の昨年度より大幅に低下した。

全てのデイサービスが、町民のニーズに合ったサービスかどうかを確認する必要があり、また、内容変更も検討すべき時期に入っていることも考えられる。さらに新規利用者様も少なく、PRの内容や方策を再検討すべきである。

小規模多機能：訪問件数は増加したものの、登録定員 20 名の目標値は一度も達成しなかった。長期間ご利用の方の体調不良やご家庭での生活の継続化に対する不安などの相談が多く、最後までほっこりを利用し続けることの不安感を感じる方が多い。

居宅介護支援：ケアプラン作成件数が約 440 件減少した。

居宅事務所の所在地により新規利用者数が影響するため、居宅介護支援事業所をより近い存在として認識していただけるように今後の対策が必要である。

▼重点取り組み事項 結果報告▼

重点事項 1) コロナ感染予防対策や大雪・台風などの災害時に対する事業継続計画（BCP 計画）の策定

結果報告：経過措置期間（3 年間）の初年度にあたる今年度は、業務継続計画とは何か、具体的な作成方法等、所管課のみならず各事業所職員においても様々な研修を受講し、計画の核となる「社協が誰のため何のための組織であるか」という根本理念の重要性を再認できた。また、避難訓練等においても継続実施し、想定力・判断力を養い、課題等を計画に反映していく。検討体制を早期に確立し、引き続き計画策定に向け、横断的に取り組む。

重点事項 2) 様々な種類の介護報酬加算を継続的に取得できるよう、更なる ICT 活用を強化し、利用者様への個別援助の時間を増加させ、日常生活の安定化へ支援

結果報告：デイサービス・小規模・居宅において看護記録のデジタル化、迅速な情報共有を主眼とし、タブレット端末（介護ソフト）を導入。事業所別に、導入による業務改善（連絡帳の電子出力、介護者との連絡ツール、日々のサービス提供記録）を実施しており、一定の成果と捉えている。しかしながらその活用度は未だ十分とは言い難く、職員の IT スキル向上が課題。

重点事項 3) あん摩マッサージ指圧師の新規配置により、利用者の個別機能訓練を強化

結果報告：松岡デイサービスにあん摩マッサージ指圧師を新規配置し、独自の機能訓練サービスの強化を図る。チラシ作成、配布と広報活動も行い、現状 1 日約 6 名～8 名程施術。利用者の反応も好評。更に他デイにおいても上位加算取得に向け、個別機能訓練の充実のため、システム導入による新たな提供方法を検討。

重点事項 4) 職員研修の強化のため、ZOOM を取り入れ、職員が受講しやすい環境整備を作る

結果報告：コロナ禍においても積極的に研修受講できるよう、研修用 PC の新調、ヘッドマイクセット等揃え、環境整備に努めた。又、研修受講者のみならず他職員も研修内容を視聴・伝達できるよう、オンライン研修ならではのメリットを最大限生かす取組みを実施。

重点事項 5) 働く職員への処遇改善や専門職としての意識の向上のため、介護職員等特定処遇改善加算を新規追加申請し、介護保険事業所の職員の待遇改善

結果報告：各デイ、小規模では特定処遇改善加算（Ⅰ）、訪問入浴では特定処遇改善加算（Ⅱ）をそれぞれ新規取得した。訪問介護も特定処遇改善加算（Ⅰ）を継続取得しており、介護保険事業所職員の処遇改善を実施。又、給与規程の一部改正を行い、介護職員処遇改善支援補助金および福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金による介護職員等ベースアップ等を図るための手段として新たな手当を明文化した。

重点事項 6) 永平寺町社会福祉協議会の福祉避難所としての役割を担えるよう環境整備

結果報告：町福祉避難所に指定されている永平寺老人福祉センターでは、フリーWi-Fi 環境構築、蓄電機、発電機、簡易テント、緊急時用電話機、簡易トイレキット等、福祉避難所としての環境整備は着実に進んだ。また、各事業所において非常食の備蓄も進めている。昨

年度実施した、新しい避難方法の検討委員参画による図上訓練(シュミレーション研修)を通しての課題を今一度振り返り、災害時の対応能力向上に努める。

◇外部・内部研修による知識研鑽、質の向上

研修種別	新型コロナウイルス感染症対策関連研修
受講事業所	在宅福祉サービス課
受講研修	新型コロナウイルス感染症対策研修 他
目的・成果	未だ終息の見通しが立たないなか、安定した事業運営継続すべく、感染症対策をアップデートし、高いモチベーションを維持し継続した対策を講じた。

研修種別	専門性向上・介護技術向上関連研修
受講事業所	各介護保険事業所
受講研修	介護技術向上研修、レビー小体型認知症の人への支援 他
目的・成果	高い専門性を維持するため、又ご利用者の満足度向上に向け、各種様々な専門性・技術向上における研修を受講し、専門職に求められる役割や、疾患、障害等の特性理解に基づく適切な支援方法等を学んだ。

研修種別	介護報酬改定・各種加算取得関連研修
受講事業所	各デイサービスセンター、小規模
受講研修	認知症介護実践者研修・基礎、管理者研修、BCP作成研修 他
目的・成果	令和3年度の介護報酬改定を受け、その背景と国の方針を理解し、その中で「感染症や災害への対応力強化」「地域包括ケアシステムの推進」といった改定の柱に即し、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制構築に向けた知識研鑽に努めた。

研修種別	リスクマネジメント関連研修
受講事業所	各介護保険事業所
受講研修	リスクマネジメント研修、介護における安全対策 他
目的・成果	事業運営において事故防止に努めることは当然の責務であり、全職員がその重要性を再認し、多角的視点から事故防止対策が講じられるよう、対応能力の向上を図った。

研修種別	内部研修（在宅福祉サービス課主催）
受講事業所	各介護保険事業所
目的・成果	令和3年度厚生労働省介護現場の生産性向上に関する全国セミナー受講者による伝達研修であり、働く方々の働きがい向上による組織定着率を上げ、生産性を高めることを目的とした企画。しかし、コロナの影響により集団研修は開催見送りとし、本年度はアンケート調査のみとなった。

◇在宅福祉サービス課所管事業所職群別会議の開催

【在宅係長会議】

在宅福祉サービス課長及び各介護保険事業所係長（所長）により構成。各事業所における情報共有や課題整理を行い、迅速に問題改善や今後の強化策等を検討する。

回	開催日	会場等	協議内容
1	4月23日	書面開催	幹部会議事報告、研修計画
2	5月28日	永平寺老人福祉センター	PRパンフレット、超過勤務の取扱
3	6月25日	ZOOM（オンライン）	コロナ研修復命、安全衛生推進会議
4	7月30日	永平寺老人福祉センター	リスクマネジメント、課題整理
5	8月20日	〃	各種連携会議
6	9月13日	〃	勤務シフト管理システム
7	10月29日	各事業所	各事業所へのヒアリング
8	11月26日	永平寺老人福祉センター	理事会・評議員会報告
9	12月23日	〃	介護保険事業所の今後の運営方法
10	R4 1月28日	書面開催	次年度当初予算編成について
11	2月25日	永平寺老人福祉センター	非常勤職員の契約について
12	3月25日	書面開催	次年度計画・予算、係長会議の今後

【各デイサービスセンター厨房職員連携ミーティング】

回	開催日	会場等	協議内容
1	9月10日	永平寺老人福祉センター	給食施設巡回指導結果による今後の対応

【介護保険事業所リスクマネジメント検討委員会】

各介護保険事業所リスクマネジメント担当委員により構成、R3.7月より発足。従来の毎月定例開催ではなく、原則事故発生翌日に招集。発生した事案について、分析・検証をおこない、再発防止にむけた協議を行う。



第1回会議（松岡）



第3回会議（上志比デイ）

◇介護施設における高齢者等の「ちょこっと就労」促進事業への参加

介護人材の確保及び高齢者等の短時間就労による介護職員の負担軽減を目的に、介護施設において、短時間で、高齢者等の能力に応じた介護の補助的業務などを行う「ちょこっと就労」への参加をし、実績あり。

参加事業所	松岡デイサービスセンター	1名雇用
	永平寺デイサービスセンター	なし

	上志比デイサービスセンター	なし
	小規模多機能型居宅介護事業所 ほっこり	なし

◇モチベーション向上、働きがい向上に向けた新規取組

【在宅通信 VOL.1 の発行】

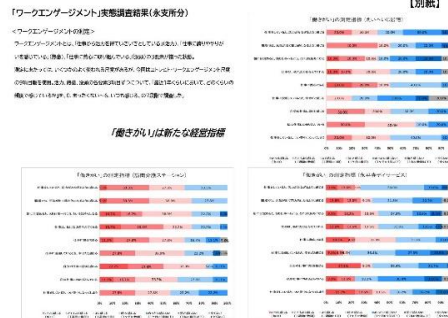
情報共有や、客観的経営状況の把握等を目的とした介護保険事業所限定の社内報を発行。事業所の収支状況や勤務実態状況、各事業所での取り組み等を掲載し、対象職員全員が数値的状況を把握できる手法として実施。

在宅通信 VOL.1→



【ワークエンゲージメント調査の実施】

永平寺事務所内事業所において職員へ「働きがい」に関するアンケート調査を実施。職員の働きがい＝新たな経営指標と捉え、実態調査をおこなっ



ワークエンゲージメント調査結果→

2. 配食サービス事業

単身高齢者や高齢者世帯等に安否確認と共に食事の提供を行う。

	松岡地区	永平寺地区	上志比地区	計
実施回数	146回			
実人数	52名	17名	18名	87名
延べ食数	5,279食 (前年比-867)	1,508食 (前年比+406)	1,947食 (前年比-423)	8,734食 (前年比-884)

上記の内セルフ事業分：3,281食（前年比：+120食）

3. 介護用品支給事業

1) 在宅生活の高齢者を対象にオムツ等介護用品にかかる経費を助成。

延べ利用件数	3,846件（前年度比；-247件）
延べ利用枚数	314,011枚（前年度比；-29,217枚）

- ・令和3年5月末にて松岡・永平寺地区の一部を配達していた薬局が事業を撤退したことにより、必要な方へ必要な数の支給ができる対策を講じ、結果的に件数、枚数とも激減した。
- ・令和3年6月より松岡地区のオムツ配達をシルバー人材センターへ委託し、新たに松岡地区では口座振替（手数料は社協負担）の導入や不在時の置き場所をご指定いただき、配達時の集金作業の簡略化及び継続的な事業運営を図った。
- ・令和4年度からのおむつ支給券への変更手続きや問い合わせに対応した。

2) 担当薬局との事業継続に向けた打ち合わせ

開催日	会場等	協議内容
5月17日	木村薬局	今後の介護用品支給事業について
6月15日		

3) 町行政との次年度以降についての打ち合わせ

開催日	会場等	協議内容
6月7日	永平寺町役場本庁 1階 多目的室	すこやか介護用品支給事業のチケット制の実施について
2月1日	永平寺町役場本庁	すこやか介護用品支給事業のチケット制の概要について

4. 寝具洗濯サービス事業

- ・対象者 一人暮らし高齢者 113名（前年度比；-37名）
要介護3以上高齢者 23名（前年度比；-2名）
要介護3以上内訳

要介護3	要介護4	要介護5	合計
11	5	7	23

令和3年度より要介護3以上の方と同様、申請方式に変更。

5. 外出支援サービス事業

移送用車両にて自宅と在宅福祉サービス等を提供する場所、医療機関との間を送迎。

延べ利用件数	5,295件（前年度比；+755件）
--------	--------------------

コロナワクチン接種のため、利用件数増加となった。

6. 家族介護(交流)教室事業

介護者様のリフレッシュを目的にする教室のほか、認知症講座等の開催を実施し、知識・技術を学ぶことを目的とした教室を開催した。

コロナ禍での開催のため、感染予防対策を徹底の上開催。

<第1回家族介護者教室>

- 開催日：令和3年10月18日
- 内容：「マッサージ体験」
- 講師：株式会社 フレアス様
- 参加者：8名



<第2回家族介護者教室>

- 開催日：令和3年11月29日
- 内容：「寄せ植え体験」
- 講師：見谷 春美氏
- 参加者：19名



<第3回家族介護者教室>

開催日：令和4年2月18日

内 容：「認知症講座」

講 師：福井県介護福祉士会 石倉 智江氏

参加者：9名



ホームヘルプ事業

1. ホームヘルプ事業

○営業日 年中無休

本年度もヘルパーの高齢化という人材不足という問題を抱えていたが、経験のあるヘルパーの訪問により、コロナ感染症の濃厚接触者になりながらも職員が感染せず運営できた。

介護保険対象外の利用件数が増えたのは、事業に対しての周知の影響であり、相談できる事業所としての認知度が上がったことといえる。

結果、訪問件数は減少したが、サービスの質の安定性は確保されているので、今後も質の確保の為に、ヘルパーの人員の確保の必要である。

お客様の状況

要介護度の状況 (年度末実人数)

		事業 対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介 護4	要介護 5	実人数	平均 介護度
R2年 度	人 数	2	3	8	14	16	7	3	7	60	2.2
	構 成 %	3.3	5.0	13.3	23.3	26.7	11.7	5.0	11.7	100.0	
R3 年度	人 数	2	5	6	17	14	8	3	6	61	2.4
	構 成 %	3.3	8.2	9.8	27.9	23.0	13.1	4.9	9.8	100.0	

利用状況

		営業日数	延べ訪 問件数	1日あたり 件数	合計訪問時間	1日あたり 訪問時間
R2年度	介護保険	365	8,800	24.1	6,562:20	17:58
	保険対象外	365	64	0.1	107:30	0:17
R3年度	介護保険	365	8,295	22.7	6,547:30	17:56
	保険対象外	365	110	0.3	152	0:25

2. 介護保険対象外ホームヘルプ事業

訪問件数は増加した。当会の介護保険対象外ホームヘルプ事業の利用対象者は、ホームヘルプ事業のご利用者である方が利用でき、1：通院介助、2：利用者が過ごす部屋以外の掃除、3：見守り支援の順に多く、今後もニーズは高い。

松岡デイサービス事業

1. 松岡デイサービス事業

定員 45 名 営業日 月～土曜（年末年始除く）

本年度は新型コロナウイルス感染症にならないことを第一に職員一同対応してきた。

令和3年度は当会のデイの中でもあん摩マッサージ指圧師を採用したことにより、利用者の機能訓練を強化する機会を整備できたが、新規利用者の獲得には課題が多かった。

結果、令和2年度と比較すると稼働率が約5%減少し、新規利用者確保の営業力不足が課題となっており、デイサービスの見える化を早急に進めていかなければならない。



<お客様の状況>

要介護度の状況（年度末実人数）

		事業 対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	実人数	平均 介護度
R2 年度	人数	0	0	7	17	18	9	7	3	61	2.2
	構成%	0.0	0.0	11.4	27.9	29.6	14.8	11.4	4.9	100.0	
R3 年度	人数	0	1	7	13	14	8	4	4	51	2.1
	構成%	0	1.9	13.7	30.2	32.6	18.6	9.3	9.3	100.0	

利用状況

		営業日数	延べ人数	1日あたり 人数	稼働率
R2年度	介護保険	305	8,738	28.6	63.6%
	自立支援	305	230	0.6	
R3年度	介護保険	310	8,113	26.1	58.1%
	自立支援	310	212	0.6	

永平寺デイサービス事業

1. 永平寺デイサービス事業

定員 40 名 営業日 月～土曜（年末年始除く）

本年度はコロナウイルス感染症にならないことを第一に職員一同対応してきた。しかし、近隣の事業所のコロナ感染発生により休館したことは運営に影響した。

令和 3 年度は入所や死亡された方が多かったが、松岡地区や上志比地区からのご利用は増加した。結果、令和 2 年度と比較すると稼働率が約 16%減少し、3ヶ所のデイの中でも減少率は一番高い。

要介護が重くなってからのサービス利用ではなく、リハビリの為に定期的にサービスを利用しながら、健康寿命が長くなるように支援していく事業所としてPRする必要がある



<お客様の状況>

要介護度の状況（年度末実人数）

		事業 対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	実人数	平均 介護度
R2 年度	人 数	3	1	8	20	17	9	7	2	67	1.9
	構 成 %	4.4	1.5	11.9	29.9	25.4	13.4	10.5	3.0	100.0	
R3 年度	人 数	4	1	5	12	15	9	5	5	56	2.1
	構 成 %	7.1	1.8	8.9	21.4	26.8	16.1	8.9	8.9	100.0	

利用状況

		営業日数	延べ人数	1日あたり人数	稼働率
R 2 年度	介護保険	306	8,955	29.2	73.1%
	自立支援	306	115	0.3	
R 3 年度	介護保険	307	7,097	23.1	57.2%
	自立支援	307	189	0.6	

上志比デイサービス事業

定員 35 名 営業日 月～土曜（年末年始除く）

令和 3 年度は職員の体調不良が続き、職員不足の課題があったが、応援体制によって運営できた。



また、途中送迎等のニーズにも応じれるように居宅介護支援事業所と連携し対応した。他のデイと比較し、事業対象者や要支援1の方が少なく、また反面、要介護4,5の方も少なく上志比地区の町民の方がに求められるサービス内容に合っているかどうかを再認識する必要性があるという課題がある。

<お客様の状況>

要介護度の状況 (年度末実人数)

		事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	実人数	平均介護度
R2年度	人数	2	2	3	11	22	4	4	5	53	1.9
	構成%	3.8	3.8	5.7	20.8	41.5	7.5	7.5	9.4	100.0	
R3年度	人数	0	0	4	12	18	8	2	3	47	1.9
	構成%	0	0	8.5	25.5	38.3	17.0	4.3	6.4	100.0	

利用状況

		営業日数	延べ人数	1日あたり人数	稼働率
R2年度	介護保険	304	7,717	25.3	72.5%
R3年度	介護保険	308	6,830	22.2	62.9%

小規模多機能型居宅介護事業

- ・開所日数 310日 (前年度比: +1日)
- ・延べ利用人数 3,275人 (前年度比; +572人)
(内訳) 通所 2,690人 (前年度比; +172人)
泊り 8人 (前年度比 ±0人)
訪問 577人 (前年度比; +400人)
- ・登録者数 13名 (前年度比: -2名)
- ・運営推進会議 6回開催 (うち3回は、新型コロナウイルス拡散防止のため書面開催)



令和3年度は看護師配置による加算取得もできた。また、令和3年度は訪問件数が伸び、小規模多機能型居宅介護事業所の特徴を理解していただきながら、在宅生活の支援ができた。

しかし、年々、介護度が高くなってきており、体調悪化により入院などが多くなってきているため、新規の利用者の受け入れについて、課題が多くある。

令和3年度登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要支援2													
要介護1	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	70
要介護2	4	4	4	3	5	5	4	4	4	4	4	3	48
要介護3	5	5	5	4	4	4	5	5	4	4	3	4	52
要介護4													
要介護5													
計	16	16	16	14	16	16	16	17	15	15	13	13	183
令和2年度	15	15	15	14	14	15	16	15	14	15	15	15	178

令和3年度提供回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	233	239	245	214	235	231	234	253	234	212	175	185	2,690
宿泊	1	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0	1	8
訪問	40	36	33	32	58	43	32	48	75	57	55	68	577
計	274	276	278	246	293	274	266	303	309	272	230	254	3,275
令和2年度	227	216	236	218	206	221	234	234	243	193	215	260	2,703

えいへいじ訪問入浴介護事業

1. えいへいじ訪問入浴介護事業

○利用者数：1名 営業日：月～金（年末年始除く）

- ・延べ利用件数 14件（前年度比；±0件）
- ・延べ利用回数 102回（前年度比；-2回）

○本年度もコロナ対策、対応に留意しながらの事業運営となった。コロナによる影響（利用控え、代替え職員の確保等）もあったものの、利用日の振替などによってサービス提供による影響を最小限に留めることができた。経験豊富な職員によるサービス提供という強みの反面、3人1チームという提供体制のため、依然職員確保が課題。高い専門性が求められるため、職員育成が急務である。

障害者計画相談事業

1. 障害者計画相談支援事業

障がい者（児）や難病患者の自立した生活を支えるため、当事者が抱える課題の解決に向け、多職種と連携強化を図りながら、本人を主体としたサービス等利用計画の作成を行う。地域における障害福祉ニーズについても年々高まりを見せており、それに比例する形で当事業所の利用契約件数も増加の一途をたどっている。

また、今年度については常勤専従の相談員1名を増員したことによる体制加算も認められ、利用件数の増加との相乗効果により事業収入が前年度比で約60%増に至った。

今後も、それぞれ個々の多様なニーズに応じていくため、事業所のさらなる体制強化および専門性の向上を図っていく。

- ・職員体制：管理者1名（相談支援専門員ならびに地域福祉業務を兼ねる）
相談支援専門員3名（前年度比+1名）
- ・契約利用者状況：計画相談支援…74名（前年度比+12名）
障害児相談支援…52名（前年度比+19名）
- ・相談支援専門員の育成：「令和3年度福井県相談支援従事者初任者研修」1名受講
「令和3年度福井県相談支援従事者現任研修」2名受講

自立支援居宅介護事業

1. 自立支援居宅介護事業

- ・延べ利用件数 237件（前年度比；+7件）
- ・延べ訪問時間 1761.0時間（前年度比；+176時間）

自立支援生活介護事業

1. 松岡自立支援生活介護事業

- ・実人数 2人
- ・延べ利用人数 8,113件（前年度比；-625件）

2. 永平寺自立支援生活介護事業

- ・実人数 2人
- ・延べ利用人数 7,097件（前年度比；-1,858件）

自立支援訪問入浴介護事業

1. 自立支援訪問入浴介護事業

○利用者数：3名 営業日：月～金（年末年始除く）

- ・延べ利用件数 36件（前年度比；+2件）
- ・延べ利用回数 285回（前年度比；+19回）

えいへいじ居宅介護支援事業

1. えいへいじ居宅介護支援事業

- ・居宅介護支援事業（要介護認定者）
ケアプラン作成件数 3,205件（前年度比；-435件）
- ・要介護認定調査（町受託）
調査件数 239件（前年度比；-33件）
- ・介護予防サービス計画作成（地域包括支援センター受託）
予防プラン作成件数 305件（前年度比；+42件）

令和3年度はケアプラン作成件数や要介護認定調査数は大幅に減少し、予防プラン作成は増加した。元気な利用者が増加しており、福祉用具などのご希望は多い反面、通所介護サービスなどの介護保険事業への利用開始までの期間は長くなっている。

また、地域で生活していくうえで、様々な困難ケースも増加しており、地域課題として捉えたケアプラン作成に力を注いでいく必要性を感じている。

<お客様の状況>

要介護度の状況（年度末実人数）

		事業 対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護5	合計
R2 年度	人数	3	7	12	98	98	44	38	17	317
	構成%	0.9	2.2	3.8	31.0	31.0	13.9	11.9	5.3	100.0
R3 年度	人数	4	10	25	79	81	41	27	16	283
	構成%	1.4	3.5	8.8	27.9	28.7	14.4	9.6	5.7	100.0

老人福祉センター運営事業

- ・開所日数 223日（前年度比；+25日）

※コロナ感染予防のため休館

令和3年4月26日～5月13日（10日間）

令和3年6月28日～7月8日（9日間）

- ・延べ利用者数 3,364 人（前年度比；+466 人）
- ・翠荘が新型コロナワクチン接種会場であることや、翠荘のお風呂の不具合により、松岡地区の方の利用者増加した。
- ・松岡地区の方が禅の里を利用することも大きく増加したため、禅の里から翠荘へ向かうバスを令和4年1月25日より2便に増やし対応。

永平寺老人福祉センター 入館者数推移

	令和3年度			令和2年度		令和元年度	
	収入額	入場者数	増減	収入額	入場者数	収入額	入場者数
4月	22,310	244	213	0	31	55,150	460
5月	11,670	176	136	0	40	37,500	435
6月	42,600	290	85	9,980	205	36,300	458
7月	15,530	210	-66	30,120	276	43,650	508
8月	29,740	360	80	33,880	280	37,450	553
9月	40,160	284	-48	31,300	332	41,100	398
10月	38,280	371	17	29,950	354	43,850	543
11月	32,470	293	-19	27,150	312	42,800	474
12月	28,530	277	-57	38,430	334	43,200	333
1月	37,760	250	105	15,480	145	32,800	469
2月	39,400	258	4	23,950	254	29,550	346
3月	48,790	351	16	33,900	335	51,550	274
合計	387,240	3,364	466	274,140	2,898	494,900	5,251

永寿苑送迎車両乗車延べ人数

永寿苑～志比～永寿苑 1,776 人（前年比 +553 人）

禅の里送迎車両乗車人数

禅の里～永寿苑～翠荘 1,981 人（前年比 +955 人）

※R3年4月26日～R3年5月13日及びR3年6月28日～R3年7月8日

※R4年1月25日より禅の里発翠荘着の便を1本増便。



地域包括支援事業

1. 包括的支援事業

1) 総合相談・支援事業

◆総合相談業務

年 度	延べ人数
R 2 年度	2,176 件
R 3 年度	2,171 件 (-5 件)

◆総合相談窓口としての周知

社協および町の広報誌にて地域包括支援センターについて広報活動を行った。
家族介護者教室（10/18、11/29、R4 2/18）にて出張相談を行った。

2) 権利擁護業務

◆成年後見制度

年 度	延べ相談・対応件数
R 2 年度	19 件
R 3 年度	25 件 (+6 件)

◆高齢者虐待への対応

年 度	実人数	延べ相談・対応件数
R 2 年度	13 人	44 件
R 3 年度	9 人 (-4 件)	45 件 (+1 件)

◆支援困難事例への対応

年 度	実人数	延べ相談・対応件数
R 2 年度	4 人	25 件
R 3 年度	10 人 (+6 件)	104 件 (+79 件)

3) 包括的・継続的ケアマネジメント業務

①地域密着型サービス事業所との連携

地域密着型サービス事業所の運営推進会議に参画し、情報共有を行いながら、事業所や地域の関係者とのネットワーク強化に努めた。

- ・グループホーム なないろ 6 回
- ・グループホーム はないろ 6 回
- ・小規模多機能型居宅介護事業所 なないろ 6 回
- ・小規模多機能型居宅介護事業所 ほっこり 6 回

・いちごデイセンター松岡

2回

②介護支援専門員に対する支援（町内の介護支援専門員）

・ケアマネ連絡会の開催

町内居宅介護支援事業所が一同に集まる機会を設け、新たな介護保険情報や福祉保健課からの連絡事項の伝達、研修会の案内や介護支援専門員の情報交換を行った。

・毎月1回定例開催（偶数月はオンライン開催）

・介護支援専門員が抱える困難事例の解決や、日々のケアマネジメント活動をよりしやすくするために、個別の相談に応じ、解決に導いた。

年 度	延べ人数
R 2 年度	55 件
R 3 年度	31 件 (-24 件)

・研修会

介護支援専門員のスキルアップのための研修会を開催。

日 時	内 容	参加人数
5月20日	自立支援ケア会議の基本的視点について	27名
7月12日	災害時、要援護者の避難を考える	34名
12月15日	福井大学医学部附属病院医療連携部との意見交換会	23名



<7/12 研修会の様子>

③地域ケア会議

・個別ケース検討会議

介護支援専門員・民生委員児童委員等から、支援困難な事例の相談に応じ、地域ケア会議を開催し、解決の糸口を探り、対応に向けての話し合いを行う。

年 度	数
R 2 年度	3 事例
R 3 年度	2 事例 (-1 事例)

・自立支援ケア会議（月1回開催）

高齢者の自立支援に資するマネジメントの質の向上を目的とした会議。

年 度	数
R 2 年度	15 事例
R 3 年度	14 事例 (-1 事例)

4) 在宅医療・介護連携推進事業

①関係機関との連携体制構築支援

開催日	内 容	参加者数	会 場
2月24日	在宅暮らしでの関わりを多職種で考える	町内介護保険事業所 12名	役場本庁

②住民への在宅ケア普及啓発活動。

開催日	内 容	参加者数	会 場
12月11日 13時30分～	「今こそ知ろう在宅医療 ～コロナ時代を自分らしく過ごすために～」 永平寺町立在宅訪問診療所 所長 楠川加津子氏	38名	永平寺 開発センター



<12/11 講演会の様子>

③在宅医療介護連携のための取り組み

在宅ケアを担う医療と介護が連携し、病院から在宅へ切れ目ない支援を実施することを目的に実施。

- ・在宅ケアを担う医療と介護が連携し、病院から在宅へ切れ目ない支援を実施するために町内事業所ケアマネジャー対象に福井県入退院支援ルールの活用及び周知を行った。
- ・医療ソーシャルワーカーと介護支援専門員の意見交換会の開催。

開催日	内 容	参加者数	会 場
12月15日	福井大学医学部附属病院地域医療連携部相談員との意見交換会	23名	役場本庁



<12/15 意見交換会の様子>

5) 生活支援体制整備事業

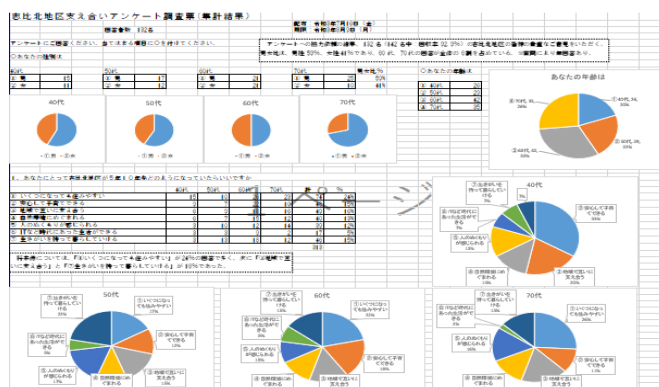
生活支援コーディネーターを配置し、住民が主体となった支え合い活動を推進。地域全体で高齢者等の生活を支える体制づくりをすすめた。

各小学校区での活動支援および調査において、社協地域福祉推進課・地域福祉活動コーディネーターとの連携・共有を図った。

①永平寺地区（志比北地区）

開催日	内容
4月30日～	座談会コアメンバー(4名)への個別調査 昨年度「ちくちくぼんぼん」への視察を得ての個人の想いや今後の志比北地区での支え合い活動の必要性を確認。
6月4日	支え合い座談会の開催 内容：個別調査報告、アンケートについて
7月16日	志比北地区振興連絡協議会で区長にアンケート調査協力依頼
8月9日～	アンケート集計（回答：132/142名中）93%
9月16日	近助タクシー例会にてボランティアセンターと研修会を開催。
10月5日	支え合い座談会の開催 内容：アンケート集計結果について
11月8日	支え合い座談会の開催 内容：アンケート報告会の開催に向けて
11月20日	アンケート報告会 参加者9名
12月17日	支え合い座談会の開催（コアメンバー2名追加） 内容：アンケート報告会の振り返り
令和4年 3月12日	志比北地区振興連絡協議会にてアンケート報告及今後の地区活動の説明

<アンケート集計結果>



②上志比地区

『上志比地区ひまわりサポートの会』の活動支援

①定例会への出席。(適時)

②社協広報誌（ほほえみ）で活動紹介記事を掲載し、取り組みの周知や利用者・賛同者の募集を図った。また、10月にCATVにて「買い物送迎」、「見守り活動」の紹介を放映。



<ケーブルテレビ撮影の様子>

③松岡地区（吉野地区）

- ・将来の吉野地区の支え合いについて、ボランティアや活動者(3名)への個別調査を実施。
- ・吉野地区の地域ふれあいサロン・いきいき百歳体操へ訪問（5か所）し、ニーズ調査を実施。そのアンケート結果を吉野地区振興連絡協議会へ情報提供する。支え合いの仕組みづくりの体制に向け連携を図った。

調査の結果、吉野地区の第一の関心は、移動手段である近助タクシーの新設であった。吉野地区振興連絡協議会が中心となり各サロン等高齢者の集いで説明を行った。包括として、引き続き吉野地区での支え合い活動や集いの場の推進図っていく。

④その他

- ①社会資源、福祉課題の周知、把握並びにすでにある協議の場への参画。
- ②町福祉保健課及び総合政策課との情報共有。
- ③町内ふれあいサロンへの参加

6) 認知症総合支援事業

認知症になっても住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域全体で認知症の方や家族を見守り支援していく体制整備にむけての取り組みを行った。

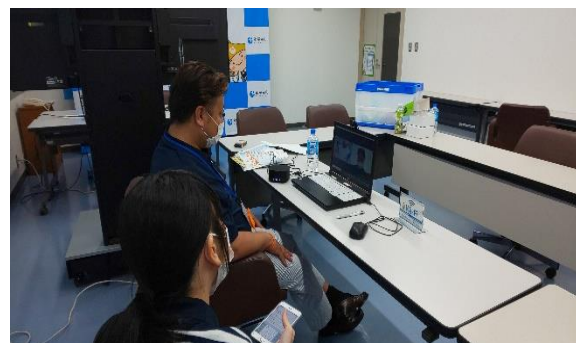
①認知症サポーター養成講座の開催

延べ7回開催。 認知症サポーター養成数 234名

開催日	団体・グループ名	受講者数
4月1日	福井大学病院	86名
5月20日	志比南小学校4年生	14名
5月21日	松岡小学校4年生	68名
7月8日	西野中サロン	8名
7月21日	健康長寿クラブ 家庭相談員	23名
9月30日	志比小学校4年生（オンライン開催）	29名
11月14日	福邦銀行松岡支店	6名



〈健康長寿クラブ家庭相談員〉



〈志比小学校オンラインにて開催〉

②認知症についての普及啓発

講演会・社協広報誌などにより、認知症の正しい理解のための普及啓発を行った。

開催日	内 容	参加者	会 場
3月12日	高齢者の運転を考える講演会 1部「高齢者の交通事故状況について」 福井警察署 交通課 内田 智美 様 2部「今こそ知ろう 安全なシニア世代の運 転に必要なこと ～高齢者運転と免許返 納について～」 永平寺町立在宅訪問診療所 医師 宇戸谷 翔太 様	21名	役場永平寺支所 2F 消防ホール

③町内キャラバン・メイト活動支援

活動に意欲のあるキャラバンメイトに声かけを行い、活動に向けて話し合う場を設けた。

開催日	内 容	参加数
6月11日	意見交換、今後の活動について	3名
8月31日	具体的な活動内容について	5名
12月20日	現在の進行状況と今後について	6名

④認知症地域支援・ケア向上推進事業

認知症地域支援推進員を配置。

・認知症カフェの支援

認知症になっても住み慣れた地域で安心して尊厳のあるその人らしい生活を継続できるよう、またその家族の介護負担を軽減することを目的に認知症カフェの企画、運営の支援を行った。(福井県独自の緊急事態宣言発令中は休止)

・認知症ケアパスの作成

⇒簡易版は町内医療機関などの窓口に置いて周知。

⇒詳細版は相談時に活用。

⑤認知症初期集中支援チームの配置

対応困難な認知症の方に対して、チーム員が実態把握や本人、家族との話し合い、医師を含めたチーム員会議で早期の対応に向けた支援を行った。

・受付件数：2件（令和3年度からの継続ケース）

・相談回数：3回

・チーム員会議回数：1回

⑥徘徊高齢者などへの対策強化

住民や関係者に徘徊高齢者等 SNS ネットワークについて周知を行い、徘徊の恐れのある高齢者の事前登録の推進および協力団体を募った

- ・登録者 29 名
- ・協力 14 団体

7) 介護予防支援事業

①介護給付による介護予防支援

年 度	延べ件数	うち委託件数
R 2 年度	1,123 件	436 件
R 3 年度	1,253 件 (+130 件)	611 件 (+175 件)

②総合事業による介護予防ケアマネジメント

年 度	延べ件数	うち委託件数
R 2 年度	660 件	201 件
R 3 年度	745 件 (+85 件)	341 件 (+140 件)

2. 一般介護予防事業

すべての高齢者を対象に、介護になる前の段階から予防を行い、日常生活の向上や社会活動への参加、生きがいづくりを目的に実施。

1) 介護予防教室の開催

福井県独自の緊急事態宣言発令中は教室開催休止(4/22～5/13、6/24～7/28、8/10～9/13)

①筋力トレーニング

活動的な高齢者を対象に生活機能の維持向上に向けた、マシンを使ったトレーニングを実施。

・ぞくぞく教室 (1年を通して 週4日 6教室実施)

	R2 年度	R3 年度
参加者数実数	58 人	52 人
参加延べ人数	1,223 人	1,429 人
延回数	175 回	226 回

・もりもり教室 (約3か月 週2日計24回 ぞくぞく教室入門編)

新型コロナウイルス感染状況により途中中断の可能性が高く、昨年度に引き続き中止。

②こつこつ教室

高齢者を対象に音楽や運動による健康教室を実施。

会 場	参加者	R2 年度	R3 年度
翠荘	実 数	35 人	37 人
	延べ人数	309 人	651 人
ざおう荘	実 数	11 人	11 人
	延べ人数	248 人	252 人

③筋トレ教室

元気高齢者を対象にした、筋力アップにつながる運動教室を実施。

- ・感染予防策で定員を各教室の広さに応じて設定。

登録者を2グループに分けて、隔週で参加する体制をとっている。

会 場		R2 年度	R3 年度
やすらぎの郷	回 数	27 回	32 回
	実 数	22 人	20 人
	延べ人数	114 人	371 人
永平寺開発センター	回 数	27 回	35 回
	実 数	37 人	38 人
	延べ人数	330 人	488 人
老人福祉センター 永寿苑	回 数	27 回	36 回
	実 数	20 人	17 人
	延べ人数	259 人	307 人
ふるさと学習館	回 数	28 回	34 回
	実 数	18 人	16 人
	延べ人数	162 人	208 人



<こつこつ教室(翠荘)>



<筋トレ教室(永平寺開発センター)>

※教室休止中においても、自主的に体操を継続できるよう支援。

○ケーブルテレビによる「いきいき百歳体操」「音楽で体操」「TV体操」の放映継続マンネリを防止するため8月より「音楽で体操」「TV体操」の内容を更新。

○休止中に自宅での体操を応援するため、参加者全員(177名)にはがきを送り、ケーブルテレビの体操スケジュールの案内などを行った。

2) 地域サロン事業等での介護予防出前講座

開催日	団体名	内 容
11月26日	松岡公民館	介護の話

3) 地域づくりによる住民主体のいきいき百歳体操の普及

より参加しやすい集落のなかで、DVDを見ながら錘を使った体操教室を推進。
サロンや小地域単位で、現在 23 箇所(昨年比+2)で住民運営の体操教室に取り組んでいる。住民自らの活動を継続性のあるものにするために、定期的に作業療法士による評価などを行った。

(福井県独自の緊急事態宣言発令中は開催自粛を呼びかけ)

4) 地域介護予防活動支援事業

○フレイルサポーター養成およびサポーターによるフレイルチェックの取り組み

開催日	内 容	参加者
6月7日	第3期ジェロントロジー共同研究成果報告会 (オンライン会議)	トレーナー1名 サポーター5名
10月8日	フレイルサポーターステップアップ研修	サポーター12名
10月21日	フレイルチェック 花谷地区(1回目)	サポ-タ-8名 参加者12名
10月28日	フレイルチェック 大月地区(1回目)	サポ-タ-7名 参加者20名
3月15日	全国フレイルチェックの集い(オンライン会議)	サポーター2名
3月22日	ふくいフレイル予防でつながる集い (オンライン会議)	サポーター3名

《その他》

①地域包括支援センターの業務を円滑に進めるための他部門との連携

- ・福祉保健課との連絡会 毎月1回定例で開催
- ・在宅介護支援センターとの連絡会 毎月1回定例で開催

②福祉、医療人材育成への協力

福井大学(医学部医学科、看護学科)、福井県立大学(看護福祉学部)、金城大学(社会福祉学部)の実習受け入れを行い、後進育成への協力に取り組んだ。

③職員の資質向上

- ・研修などを受講し資質向上を図った。

【オンライン研修】

月 日	内 容	参加数
6月7日	第3期ジェロントロジー共同研究成果報告会	2名
6月18日	令和3年度チームオレンジ市町担当者会議	2名
7月14日	成年後見制度利用促進体制整備担当者会議	2名
7月20日	令和3年度介護者支援におけるワーキング会議	2名
7月26日	令和3年度地在協研修会(豪雨災害を通し支援の内側・外側で見えたこと、気づいたこと)	4名
7月27日	高齢者虐待防止関係職員研修会	3名
8月6日	成年後見制度利用促進体制整備担当者会議	2名
8月21日	近畿ブロック地域包括ケア推進セミナー	2名
9月1日	自立支援型地域ケア会議助言者対象研修	3名
9月21日、27日	主任介護支援専門員更新研修	2名
R4年2月18日	成年後見制度行政向け研修会	1名
2月22日	介護者支援研修会	2名
2月28日	災害時も日常も安心安全な地域社会	1名
3月15日	全国フレイルチェックの集い	2名
3月22日	フレイル予防報告会	2名
3月25日	成年後見制度利用促進体制整備担当者会議	1名

【対面研修】

月 日	内 容	場 所	参加数
5月20日	介護支援専門員研修会(自立支援ケア会議の基本的視点について)	役場本庁	6名
5月31日	要介護者計画に関する説明および打合せ会	役場本庁	2名
6月28日	新しい避難に関する検討会	役場本庁	1名
7月12日	介護支援専門員研修会(災害時、要介護者の避難を考える)	役場本庁	6名
7月31日	令和3年度永平寺町避難行動要支援者協議会キックオフ講演会	四季の森文化会館	1名
8月19日	個別避難計画説明会	松岡末政区	1名
9月17日	坂井市社会福祉協議会研修	坂井市社協	2名

9月30日	第2回避難行動要支援者協議会	役場本庁	1名
2月1日	永平寺町介護用品説明会	役場本庁	5名

3. 在宅介護支援センター事業

- 1) 高齢者の安否確認、実態把握及び相談対応
 - ①安否確認 1232件（前年度比：-409件）
 - ②実態把握 366件（前年度比：+3件）
 - ③相談対応 675件（前年度比：+399件）
- 2) 365日24時間体制（夜間携帯対応）で町民からの相談を受け、地域包括支援センターのブランチとして、地域包括支援センターにつなぐ。
- 3) 高齢者の実態調査や初期の相談対応業務を地域包括支援センターと協力・連携した。また緊急時の対応がスムーズにできるよう安心カードの記入を促し実態把握を行った。
- 4) 月1回定例開催される地域包括支援センターとの連絡会、福祉保健課との連絡会に出席し、情報共有等を行い連携を図った。
- 5) 新型コロナウイルスの影響による公共施設などの閉館中は、ひとり暮らしや高齢世帯で心配な方を中心に電話での安否確認を行った。地区での集まりの場が少なくなったが、サロンやいきいき百歳体操など実施している地区では参加を促した。
- 6) 昨年に引き続き一人暮らし会食会は中止となり民生委員の方と見守り訪問を行った。民生委員の方との連携を図ることができ実態把握にもつなげることができた。
- 7) 積雪時は電話での安否確認、雪の状況によっては雪かきボランティアの方につなぎ関係機関と情報共有し見守りを行った。

基金運営事業

1. 福祉基金

社会福祉事業の推進にあたり、必要とする費用の財源対策として積み立てる基金
（令和3年度組入額：1,571,724円）

2. 地域福祉事業安定化基金

住民の福祉需要に対応し、地域福祉事業の安定的な発展を図るため積み立てる基金

3. 介護保険事業安定化基金

介護保険事業運営に必要な財源の安定的確保を図るために積み立てる基金

4. 施設管理運営安定化基金

自ら保有する施設の維持管理及び適正な運営に必要な財源の安定的確保を図る目的で積み立てる基金

（令和3年度組入額：5,000,079円）